

Digitized by Google

Original from HARVARD UNIVERSITY

CHINESE-JAPANESE LIBRARY OF HARVARD-YENCHING INSTITUTE



HARVARD UNIVERSITY

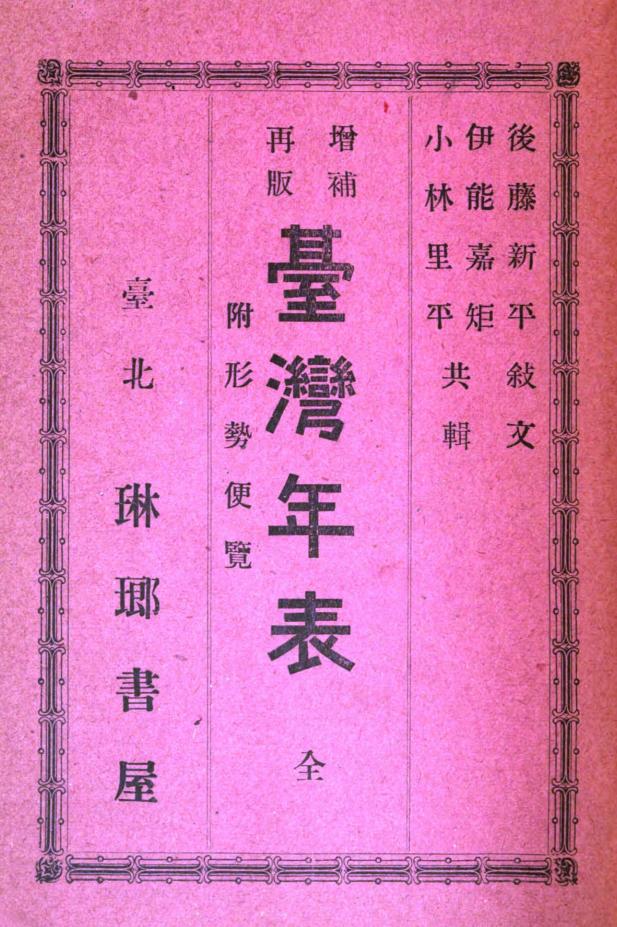


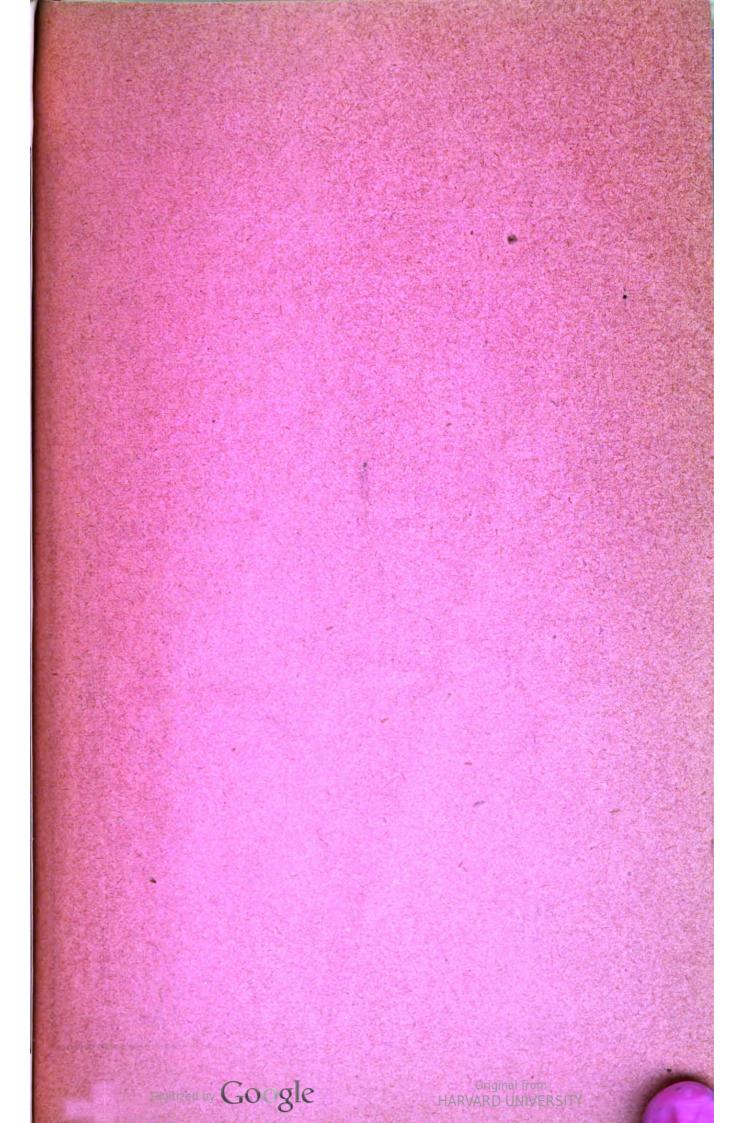
	再增	小伊後
	版 補	林能藤
	基	里嘉新
臺	附主	平矩平
北	形涂語系	共 敍
	勢/弓	輯文
林	便士	
1	90000000000000000000000000000000000000	
胍		
書	不	
	全	
屋		

CHINESE-JAPANESE LIBRARY
HARVARD-YENGHING INSCITUTE
AT HARVARD UNIVERSITY

rinrokaku JAN 11 1959

J3470/9461





豈 歷 テ 凡 ス シ 歷 史 テ ソ = ル 獨 史 政 政 言 ハ 治 IJ ナ 故 治 ት 詩 待 相 ナ ナ ハ 人 障 リ、政 行 其 タ ス、吾 國) サ 乜 治 ノ $\mathbf{\tilde{z}}$ ス ル 未 而 歷 ナ ナ ハ 史 ラ Ŋ 新 汐 シ 此 之 テ = ナ ン 其 因 Y V ナ ラ 彫 治 前 = サ ル 刻 據 績 聞 國 ル 家 ナ V 乜 舉 歷 ノ 力 サ ハ 則 史 ク ラ ル ナ ナ ス ナ ル 歷 新 審 ヺ Ŋ ハ 史 然 其 政 力 ン 人 ノ チ 4 =

以 則 年 表 4 ナ 其 Ŋ 大 如 林 情 丰 大 伊 ハ 能 勢 歷 史 ナ 了 節 ス 灣 目 ル 年 ナ ナ 表 得 Ŋ ナ 節 **^** 作 目 シ 年 已 ŋ 表 ・テ = 刻 明 ノ 必 = ラ 付 要 力 ア ナ ル V 所 ノ

3

ナ

必

要

=

存

〇序

}

Ŧ

セ

ス

行

フ

明治三十五年十二月言サ請び即ヶ此レッ書シ

シァ序ト為ス

棲霞山人新

新平

本書ハ昨年一月及本年一月ノ兩度ニ、 臺灣慣習記事ニ揚ケタル モノヲ輯メ、更ニ

訂正増補シテ再版シタルモノニ係ル

本書題 シ テ「臺灣年表」ト 云 フ ŀ 雖 Æ, 其實年表 ハ 一 部分ニ シテ、 茍 クモ臺灣ヲ 研

究スル = 必要ナルモノ ハ 盡ク網 維 シ テ 遺 ス ナ シ、 其詳細 1 如 キ ハ 本書目錄 = 詳 力

ナリ

年表 ハ筆ヲ蘭人據臺ノ當年ニ起シ、 日本領臺 三至 リテ擱 ケリ、 是レ蘭人據臺以前

ニ於ケル事蹟ハ、 文書 ノ 徵 ス ~ キ Æ ノ少ナク シ テ年代ノ孜 難キ ŀ 日本領臺以

後ノ事蹟ハ之ヲ記スルモ其益少ナキトヲ以テナリ

本曹 عجر 記載 沙沙 ·JV 事 實 = 銳 * 々引用書目 ヲ揭 ク w **∕**``\ 後 日索引 ノ便少ナカ ラ

かも 此ノ 限リ ア p 紙數 で能 タス 丰 = アラ サル タ以 テ 暫 ク 略 = 從 フ

本書い初メ袖珍 トナスノ 計畫ナリショ以テ、 全部殆ど ト六號活字ヲ用 井 且 ツ 器

凡例

Digitized by Google

リト雖モ、 械力許ス限リ多量ノ文字ヲ植込ミタリ、之レカ爲メ往々讀ムニ便ナラサル 亦勢已ムヲ得サルナリ、 讀者幸二諒七日

編

明治三十六年二月十一日

者識

す



Digitized by Google

Original from HARVARD UNIVERSITY

◎多所舊跡…	○領臺當時の	○第三門	◎臺灣に關す	第九四	〇第八門	第第第六五三	○第二門
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	地方官 舉人及貢生	洋書	漢籍	人事名數 敬辭	學者其他の稱呼人倫	年中行事	百家姓
					五. 玩. 〇	四四八	

已卯	戊寅	工儿	丙子	乙亥	甲戌	癸酉	壬申	辛未	庚午	己		戊辰	丁卯		丙寅	乙丑	甲子	癸亥	壬戌	干支	
十六	十五	十四四	十三	+	+	+	九	八	七	六		£	四		Ξ	=	宽水一	九	和	1	
+=	+	+	九	八	七	六	五	四	Ξ	=		崇禎元	七		六	Ł	깯	Ξ	天啓二	漢曆	臺
一六三九	一六三八	一六三七	一六三六	一六三五	一六三四	一六三三	一六三二	一六三一	一六三〇	一六二九		一六二八	一六二七		一六二六	一六二五	一六二四	一六二三			灣
〇和蘭東		和	滋				•		闎	西班	N	濵		メ	四		關人	和關人	和關人		年
印度會社ノヨ		教師かん	祝チ建テト						مهر	人淡		和閱領		ノ宣教師來	人基隆二據		澎湖チョ	城チ澎湖	澎湖二樓	事	表
脱終者臺灣三		う	将・日フ						ちあ城(今ノ	りさんちあた		ニ强硬ナ		ル	りさんさるデ		遷勝ニ 據ル	プ	uf	i	
來ル		記録す著ス							安平)成ル	城チ築ク		被害要償ノ						ルス	ý		
												談判ヲ申込			築り〇毫彎					項	
												ミ聴容セラ			土蕃教化ノ						
	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ親終者臺灣ニ	十六・十二・一六三九・〇和蘭東印度會社ノ視綜洛臺灣ニ十五・十一・一六三八	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視経済臺灣三十五 十一 一六三八 〇和蘭宣教師かんぢゃらす臺灣地十四 十 一六三七 〇和蘭宣教師かんぢゃらす臺灣地	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視察十五 十一 一六三八 一和蘭宣教師かんぢゃう十四 十 一六三六 〇和蘭宣教師かんぢゃう十三 九 一六三六 〇滿洲國號ヲ建テト清ト	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視疹十五 十一 一六三八 一和蘭宣教師かんぢゃう十三 九 一六三六 〇湖洲國號ヲ建テト清ト十二 八 一六三五	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視疹十五 十一 一六三六 〇和蘭宣教師かんぢょう十三 九 一六三六 〇補洲國號ヲ建テト清ト十二 八 一六三五	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視察十四 十 一六三九 〇和蘭宣教師かんぢゃう十四 十 一六三六 〇滿洲國號ヲ建テト清ト十二 八 一六三五 〇滿洲國號ヲ建テト清ト十二 八 一六三三	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視察十二 十二 一六三九 〇和蘭宣教師かんぢゃう十四 十 一六三六 〇滿洲國號ヲ建テト清ト十二 九 一六三五 〇滿洲國號ヲ建テト清ト十五 十 六 一六三三	十六 十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視察十四 十 一六三六 〇補溯國號ヲ建テ・清ト十四 十 一六三六 〇補溯國號ヲ建テ・清ト十四 十 一六三元 〇補洲國號ヲ建テ・清ト十五 十一 一六三二	十六 十二 一六三八 〇和蘭東印度 十二 九 二六三二 〇和蘭宣教師 十二 八 二六三二 〇 一	十六 十二 一六三九 ○西班牙人淡 コー六三九 ○西班牙人淡 十二 十二 1六三二 ○和蘭夏教師 十四 十二 1六三五 1六三五 1六三五 1六三五 1六三五 1六三九 1六三九 1六三九 1六三九 1六三九 1六三九 1六三九 1六三九	十二 一六三九 〇四班牙人淡水ニ練リさ	五 崇禎元 一六二八 〇濵田爛兵衛和閩領事ニ張硬ナ	四 (回) 七 一六二七 〇濱田獺兵衛五 (回) 七 一六二九 〇濱田獺兵衛五 十二 十二 六三九 〇西班牙人淡十二 十二 六三九 〇和闌宣教師十二 十二 十二 六三九 〇和闌宣教師十二 十二 六三九 〇和闌宣教師十二 十二 六三九 〇和闌宣教師十二 十二 六三九 〇和闌宣教師十二 十二 六三九 〇和闌宣教師	四 七 一六二七 ○演田爛兵衛和関領事ニ張硬ナ五 崇禎元 一六二九 ○演田爛兵衛和関領事ニ張硬ナ十二 六 二六三二 八 一六三二 八 一六三二 九 一六三二 九 一六三二 九 一六三二 九 一六三二 九 一六三二 八 一六三二 一六三八 ○和蘭宣教師かんぢゃうす蓬灣十五 十一 一六三八 ○和蘭宣教師かんぢゃうす蓬灣十五 十一 一六三八 ○和蘭宣教師かんぢゃうす蓬灣十五 十一 一六三八 ○和蘭東印度會社ノ視察者臺灣十五 十一 一六三八 ○和蘭東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八 ○和蘭東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八 ○和蘭東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八 ○和蘭東印度會社ノ視察者臺灣	三 六 一六二六 〇西班牙人基隆ニ據リさんさる 三 六二六 〇瀬田爛兵衛和関領事ニ强硬ナ五 崇順元 一六二八 〇瀬田爛兵衛和関領事ニ强硬ナカ 五 二六二八 〇瀬田爛兵衛和関領事ニ强硬ナ十二 六 一六三二 八 四 一六三二 八 一六三二 十 一六三二 八 一六三二 一六三八 〇和関宣教師かんぢあ城(今,十五 十一 一六三八 〇和関東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八 〇和関東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八 〇和関東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八 〇和関東印度會社ノ視察者臺灣十二 一六三八	二 元二九 〇和蘭東印度會社ノ視察者臺灣ニ十二 一六三九 〇和蘭東印度會社ノ視察者臺灣ニ十二 九 二六三九 〇瀬田爛兵衛和關領事ニ張硬ナル		九 三 一六二三 〇和關人澎湖ヶ退キ臺灣ニ據ル 三 六 一六二五 〇四班牙人基隆ニ據リさんさるデニ 二 二二五 一六二五 〇四班牙人基隆ニ據リさんさるデニ 二 二二五 一六二九 〇四班牙人基隆ニ據リさんさるデー 十二 一六三九 〇和關宣教師水ル カ エ 一六三二 ハ 四 一六三二 ハ 四 一六三二 ハ 一六三九 〇和關宣教師かんぢゃうす臺灣地十二 十二 一六三九 〇和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ十二 十二 一六三九 〇和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ十二 一六三九 〇和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ 十二 一六三九	元和八 天啓二 一六二二 〇和關人澎湖ニ據ル明政府吴龍ア 九 二 二六二四 ○和關人澎湖ニ線・夏門チ犯 二 二六二五 ○西班牙人基隆ニ據リさんさるデ 六 二 二六二九 ○西班牙人基隆ニ據リさんさるデ ニ 二六二九 ○西班牙人湊水ニ據リさんさるデ 十二 十二 二六三二 ○和關人ジ湖チ退キ臺灣ニ據ル 十二 十二 十二 二六三二 ○和關人之世いらんぢあ城(今ノ中十五 十一 十二 一六三九 ○和關宣教師かんぢゃうす臺灣地十二 十二 二六三九 ○和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ 十一 二六三九 ○和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ 十一 二六三九 ○和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ 十一 二六三九 ○和關東印度會社ノ視察者臺灣ニ 十二 二六三九 ○和關東中國 ○和國人家 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○ 1 ○	東京 (明) 暦 四 暦 本 東京 (明) 暦 四 暦 (明) 暦 四 暦 本 東京 (明) 日 1 六二二 (1) 〇和関人澎湖ニ線キ厦門チ犯 三 1 六二五 (1) 〇和関人澎湖ニ線キ厦門チ犯 三 1 六二五 (1) 〇和関人澎湖ニ線キ厦門チ犯 三 1 六二五 (1) 〇和関人澎湖ニ線・厦門チ犯 三 1 六二五 (1) 〇和関人澎湖ニ線・厦門チ犯 三 1 六二五 (1) 〇和関人澎湖ニ線・屋間門チ犯 一 1 六二五 (1) 〇和関人澎湖ニ線・ 本 1 六二五 (1) 〇和関人家湖ニ線・ 本 1 六二五 (1) 〇和関人家湖ニ線・ 本 1 六二五 (1) 〇和関人家湖ニ線・ 本 1 六二五 (1) 〇和関人のでいらんざめ城(今ノ中 ・ 1 六三五 (1) 〇和関宣教師かんが、今月中 ・ 1 六三五 (1) 〇和関宣教師かんが、今月中 ・ 1 六三五 (1) 〇和関東印度會社ノ視経者臺灣ニ ・ 1 六三九 (1) 〇和関東印度會社ノ視経者臺灣ニ

Digitized by Google

海

年

表

Original from HARVARD UNIVERSITY

○鄭成功臺灣選附テ和閩人迫ニル○和閩宣教師だににる、ぐらずい	一六六一	順永十十	宽文一	辛山
	一大六〇	順清性十七四	Ξ	庚子
	一六五九	ξ - -	=	已亥
	一六五八	+=	萬治一	戊戌
	一六五七	+	=	丁酉
	一六五六	+	=	丙申
	一六五五	九	明曆一	乙未
	一六五四	八	Ξ	甲午
	一六五三	七	=	癸巳
三立テジメヴニ六輪ヲ頒				
削け作シ和関人	一六玉二	六	承應一	正辰
	一六五一	Ł	29	
つすノ臺灣小あぼらんぐ				
ノぶろういでんち	一六五〇	团	Ξ	庚寅
	一六四九	'三	=	已业
○土蕃教育ノ學校ヲ設立ス	一六四八		慶安一	戊子
〇大清律令ヲ頒行ス	一六四七	州	뗃	丁亥
	一六四六	隆武元	Ξ	丙戌
らす		'		
師附土蕃ノ長老+集メテ評議	一六四五	弘光元	=	乙酉
	一六四四	十	正保一	甲申
	一大四三	十六	=	癸未
〇八月西班牙人臺灣ヲ退ク	一六四二	十五	十九	壬午
	一六四一	十四	十八	辛巳

		裘	海年	*
ナ征セント誌	十十六一六七二	康永十二	+ -	壬子
	十五 一六七一	康永二十五十五	+	辛亥
○聖諭十六條ヶ順ツ	上四 一六七○	康永二十四	+	庚
1 1 1	十三 一六六九	康永二十三八八十三	九	己酉
ノ列ナ以テシ肯セズ〇二月清帝大臣明珠蔡毓榮ニ詔シ鄭經ナ招論ス經答フルニ朝鮮琉球	七二一六六八	康永二十二	八	戊申
	六 一六六七	康永二十一	七	丁未
介シテ交通ス経療海ニ聖廟ナ建テ學制	康 五 一六六六	康永	六	闪 午
臺灣ヲ攻メントシ船外洋ニ至リ飓ノ爲ニ飄散シテ還ル○正月鄭經安平鎭ニ於テ明主ニ遙拜朝貿ノ禮ヲ行フ○靖海將軍施琅	十九 一六六五	康永	Ł	乙巳
ノ諸親王寧靖王等隆灣ニ至リ鄭氏ニ據ル○英人鄭氏ト安平厦門ノ兩地ニ於テ通商スルノ約ヲ結プ○明朝皇室	十八一一六六四	康永	团	甲辰
考試科目サ定ム ○和關人清國下聯合シテ鑑譽テ恢復センコトチ企ツ○八月清ノ禮部『東京日』名第『』・『『編書』』	十七二六六三	康永	Ξ	癸卯
ズ在髪セズを冠チ易へズト空報セズの魔茂人チ毫粉ニ遣シ鄭經ナ招諭ス謎シテ朝鮮ノ事例ニ炤シ岸ニ登ラシテ成ラズ○五月一日鄭成功疾ヲ以テ逝ル于經繼グ○清ノ靖南王駅○郷成功和喘人ヲ蹇樽ヨリ退ケ之ニ據ル○鄭成功呂宋ヲ征服セントらす菊約全書中ノ馬太約翰二傳ヲ蕃語ニ譯ス	元 六 一六六二	康治水 然 十	=	壬寅

チ置キ厦門ト通航スルチ准ス○臺灣縣儒學チ創建ス次デ鳳山縣儒學○臺灣府及ビ臺灣諮羅鳳山三縣チ設ク○臺灣府內港ヲ開キ海防同知理セシム○陳文林侃等ノ商船初メテ臺東(崇爻)ノ蕃地ニ至ル	一六八四	康二十三	真。	甲子
灣ヲ收メテ版圖トシ福建省ニ屬セシメ分巡臺厦道ヲ置キ學政使ヲ狼──○清國討臺ノ議ヲ決ス○七月十九日鄭克塽清國ニ歸降ス○清國ハ臺──	一六八三	康元二十二七	3	癸亥
○寧海將軍喇順逆ヲ誤ラザルベキ旨ヲ臺灣島民ニ諭ス	一六八二	康八二十二十二六	. =	壬戌
〇鄭糎疾ヲ以テ逝リ子克塽繼グ	一六八一	康永二十五	天 和	辛酉
〇二月鄭經金厦二島チ薬テト臺灣ニ歸ル明史が修プミス	. 一六八〇	康永三十 九四	八	庚申
月旦ナ多スンスの五月内閣學士徐元文、翰林院學士葉方譌、右庶子張玉書等ニ詔シー	一六七九	康永三十二	七	己未
	一六七八	康永三十二	六	戊午
	一六七七	康十二六	五	工
	一六七六	康永 十三 五十	四	丙辰
〇清國鄭經ニ歸降ヲ勸ム〇 C. E.S. ノ等閑ニセラレシ臺灣戊ルリニブリ	一六七五	康永二十四九	=	乙卯
州ニスレ〇四月耿精忠諸將ト議シ鄭經ヲ率セントス經臺灣ヨリ海ヲ渡リテ泉「馬ラ薯クコニーラ介ツ	一六七四	康永二十八	=	甲寅
○ 終三桂雲南ニ據リテ叛シ使ヲ臺灣ニ遣シ款ヲ鄭氏ニ通ご合従シテ	一六七三	康永二十二七	延賢一	癸丑

	一七〇五	四十四	=	乙酉
○崇文書院ヲ臺南城内ニ建ツ○江日昇ノ臺灣外記成ル○ぶさるまな	一七〇四	四十三	賓水一	甲申
	一七〇三	四十二	十六	癸末
	1七0二	四十一	十五	壬午
○劉却亂ヲ作ス	1七〇一	四十	十四	辛巳
	1七00	三十九	十三	庚辰
〇淡水ノ吞筲蕃社ヲ討ツ次デ北投蕃社ヲ夷グ	一二八九九	三十八	+ =	已卯
	一六九八	三十七	+	戊寅
林ノ人郁水河初メテ臺灣内	一六九七	三十六	+	丁丑
奂	一六九六	三十五	九	丙子
				,
臺灣知府靳治揚	一六九五	三十四	八	乙亥
○臺灣府誌初修成ル	一六九四	三十三	七	甲戌
	一六九三	三十二	六	癸酉
	一六九二	三十一	五	壬申
民居ヲ 褒リ船舶皆飄	一六九一	三十	四	辛未
○臺南城外ノ舊鄭氏北園ヲ改メ海會寺ヲ建ツ○四月大清會典成ル	一六九〇	二十九	Ξ	庚午
	一六八九	二十八		己已
	一六八八	二十七	元祿一	戊辰
〇羽メテ在臺民ノ福建郷試ニ應ズルヲ准ス	一六八七	二十六	<u>.</u>	丁卯
	一六八六	二十五	Ξ	丙寅
〇毫灣府儒學ヲ創建ス〇四月禮部各省督撫ニ令シ遺書ヲ購求ス	一六八五	二十四	=	乙丑
犬の養濟院ヲ創建ス○臺灣ニ波航スル者家省ヲ招致スルヲ禁				

蕃節附ス○藍鼎元ノ平臺紀略成ル○聖諭廣訓十六章ヲ領ツ○淡水廳澎湖廳及ビ彰化縣ヲ設ク○水沙連畫ス○原山県下南山亜系プ	七二三	雍 正元	八	癸卯
小彩連名 本 が 変 を が 変 を を を を を を を を を を を を を	七二二	六十一	七	壬寅
勝 縣	一七二一	六 十	六	辛业
○十二月大地震凡ソ十餘日屋テ倒シ人ヲ殺ス○海東書院ヲ臺南城内○十二月大地震凡ソ十餘日屋ヲ倒シ人ヲ殺ス○海東書院ヲ臺南城内○鷹山縣志成ル	一七二〇 七二〇	五五十十九八	五四	庚已子亥
	七十八八十	五五十十七六	ヨニ	戊 丁
	一七一六	五十五	享保一	丙申
〇浙閩總督初メテ土藩歸附ノ狀ヲ奏ス復量・經緯度ヲ策ィ〇即東列傳放ル	一七一五	五十四四	T .	乙 未
ノミ章をよるようにすいこ宣教師づ勝セサルコトトセ	七一四	五十三.	四	甲午
見就 ボンコン・ス 人頭税額ナ定限シ五	一七二三	五十二	Ξ	癸已
ノ地租ヲ免ス	ー七一二	五十一	_	壬辰
	一七一一	五十	正総一	辛卯
函成ル	一七一〇	四十九	ti	庚寅
	一七〇九	四十八	六	己丑
	一七〇八	四十七	五	戊子
	ー七〇七	四十六	四	丁亥
○嘉義縣儒學ヲ創建ス	一七〇六	四十五	121	丙戌

七 一七二九 〇山猪毛薯社チ討ツ〇溜ニ渡臺チ企ツル者チ祭フルノ禁制サ愛ス〇 九 一七三〇 〇英福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 十七 一七三二 〇英福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 十一 一七三二 〇英福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 十一 一七三二 〇英福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 十二 一七三五 〇東福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 十三 一七三五 〇東福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 十三 一七三五 〇東福生鼠サ作ス〇大甲蕃社チ討ツ 1七三六 〇連正元年欽定ノ懇諭廣訓十六章チ臺灣ニ頭行ス 中三 一七三五 〇月加獵毒社チ討ツ〇十二月大地震被害地方多シ 乾隆元 一七三六 〇清院規訓テ履ツ 乾隆元 一七三六 〇清院規訓テ履ツ 1七三六 〇清院規訓テ履ツ		
七三九 ○山猪毛蜜社チ討ツ〇溜ニ液 七三〇 ○英福生亂ヲ作ス○大甲番社 七三二 ○英福生亂ヲ作ス○大甲番社 七三二 ○英福生亂ヲ作ス○大甲番社 七三二 ○英福生亂ヲ作ス○大甲番社 七三二 ○英福生亂ヲ作ス○大甲番社 七三五 ○資源ニ土蕃社學ヲ設ヶ数ルナー七三五 ○書院規訓ヲ履ツ 七三六 ○書院規訓ヲ履ツ 七三六 ○書院規訓ヲ履ツ 七三六 ○書院規訓ヲ履ツ 七三六 ○書院規訓ヲ履ツ	-	丁已
七三九 ○山猪毛蜜社チ討ツ〇間ニ波 七三〇 ○柴福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三〇 ○柴福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三四 ○柴福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三四 ○東福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三四 ○東福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三四 ○東福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三四 ○東福生胤ヲ作ス〇大甲番社 七三五 ○暦加畳・強子・サール・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	元文二	丙辰
七二九 ○山猪毛蜜社チョッ〇暦ニ波ー七三〇 ○英福生風サ作ス〇大甲番社 七三二 ○ ○英福生風サ作ス〇大甲番社 七三二 ○ ○英福生風サ作ス〇大甲番社 七三二 ○ ○英福生風サ作ス〇大甲番社 七三二 ○ ○英福生風サ作ス〇大甲番社 七三四 ○ ○文官ノ年四十ヲ過ギテ子ナ ○ ○ ○ 本華氏ノ家谷ヲ招致スルナー七三四 ○ ○ 文官ノ年四十ヲ過ギテ子ナ ○ 本華・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ニナ	乙卯
一七三〇 一七三〇 一七三〇 一七三〇 〇英福生凱サ作ス〇大甲番社 一七三二 〇本臺民ノ家谷ヲ招致スルナ 一七三二 〇本臺民ノ家谷ヲ招致スルナ 一七三二 〇本臺民ノ家谷ヲ招致スルナ 一七三二 〇本華民ノ家谷ヲ招致スルナ 一七三二 〇本華氏ノ家谷ヲ招致スルナ		
一七三二 〇瀧正元年欽定ノ聖諭廣訓十一七三二 〇海羅生亂サ作ス〇大甲番社一七三二 〇英福生亂サ作ス〇大甲番社一七三二 〇英福生亂サ作ス〇大甲番社一七三二 〇英福生亂サ作ス〇大甲番社一七三二 〇海正元年欽定ノ聖諭廣東	十九	甲寅
- 七三九 ○山猪毛癬社チ討ツ○藍元 - 七三二 ○兵福生亂チ作ス○大甲番社 - 七三二 ○兵福生亂チ作ス○大甲番社 - 七三二 ○兵福生亂チ作ス○大甲番社 の兵福生亂チ作ス○大甲番社	十八	癸丑
一七三二 ○在臺民ノ家谷ヲ招致スルヲニー七三二 ○英福生飢ヲ作ス○大甲番社ー七三一 ○英福生飢ヲ作ス○大甲番社ー七三一 ○英福生飢ヲ作ス○大甲番社ー七三二 ○英福生飢ヲ作ス○大甲番社		
一七三一 ○吳福生亂ヲ作ス○大甲番社一七三○ 聞錄成ル一七三○ 聞錄成ル一七三○ 問錄成ル一七三○ 問錄成ル	十七	壬子
一七三〇 開錄成ル 日七三〇 開錄成ル 日本三〇 開錄成ル	十六	辛亥
聞錄成ル──闘錄成ル──問錄成ル──問錄成ル──問錄成ル──問錄表書記書討め○暦ニ渡	十五	庚戍
一七二九 〇山猪毛蕃社チ討ツ〇暦ニ波	•	
一七二九 〇山猪毛癬社・討ツ〇間ニ渡		
	十四四	已酉
甚シ		
六 一七二八 ○臺灣道チ體ク學政使ハ觀察側及ノ兼理トス○関七月大風アリ損壞	ナミ	戊申
コトヲ奏請ス〇駐肇		
五 一七二七 ○巡道尹秦肇灣田制ノ利弊ヲ査シ彰化以北新開ノ地ニ新制ヲ布カン	+=	丁未
ニ鯖シ臺灣府ノ管理トス〇彰化縣儒學ヲ創建ス〇奎樓書院ヲ豪南城		
ノ人頭税サー石三錢六厘ノ比ニテ納メシム〇鹽制ヲ發布シ鹽業ヲ官		
四 一七二六 〇重修明史成ル〇水沙連落社ヲ討ツ〇熟蕃婦ノ人頭税ヲ覓シ又蕃丁	† –	丙午
三 一七二五		乙已
		甲辰

	一七五六	1+1	- 六3	丙 Z 子 3
きーナル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- - - 	÷	Б.	1
月大風禾	五	十九	24	甲戌
八月大	一七五三	十八	Ξ	癸酉
チシム				
ノ蕃地ニ入ルヲ禁ズ○朝				
重修肇樹縣志成ル〇石ナ	五	十七		壬申
七月大風アリ傳へ	五	十六	實曆一	辛未
七月大雨水田園沖陷スル	五.	十五五	Ξ	庚午
七月大雨水田園冲陷スル	四	十四	=	己已
大清一統志チ撰セシム	一七四八	十三	寬永一	戌辰
ノ例サ定ム				
塞民ノ	一七四七	+ =	四	丁卯
削建ス				
賴修	一七四六	+	Ξ	丙寅
弧内ニ建ツ				
塾民ノ家眷 チ携帯スル	一七四五	+	=	乙丑
○牽灣ノ武官ニシテ名ヲ墾地ニ托シ自ヲ莊田ヲ置クヲ禁ス	一七四四	九	延三一	甲子
	一七四三	八	Ξ	癸亥
	一七四二	七	=	壬戌
〇軍修肇将府志成ル	一七四一	六	寬保一	辛酉
~	一七四〇	Ł	五	庚申
○漢人ノ蕃地チ侵占スルノ禁チ公布ス○校士院チ臺南城内ニ建ツ	一七三九	四	py.	已未
	一七三八	Ξ	Ξ	戊午

•	一七七八	四十三	七	戊戌
	一七七七	四十二	六	丁酉
○十一月大地震中部地方壓死者多シ	一七七六	四十一	五.	丙申
	一七七五	四十	깯	乙未
	一七七四	三十九	Ξ	甲午
〇四庫全書成ル	一七七三	三十八	=	癸巳
	一七七二	三十七	安永一	壬辰
〇ぺれれらすき - 塞灣二殖民サ企ツ	一七七一	三十六	八	亲亦
○黄教凱#謀ル○漢林生トイフ者蛤仔難蕃地#探檢シテ殺サル	一七	三十五	七	庚寅
	一七	三十四	六	己业
	一 七	三十三	Æ.	戊子
〇胡三水ノ澎湖紀略成ル	一七	三十二	四	丁亥
島ノ文廖ニ建ツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				•
蕃	一七六六	三十一	Ξ	丙戌
〇明志書院ヲ新竹城内ニ建ツ	一七六五	三十	=	乙酉
○新修臺灣府志成ル○重修鳳山縣志成ル	一七六四	二十九	明和一	甲申
	一七六三	二十八	士三	癸未
	一七六二	二十七	+	壬午
	一七六一	二十六	+	辛巳
〇臺民ノ家脊ヲ携帶スルヲ准ス	一七六〇	二十五	+	庚辰
玉峰書院+諸羅(嘉義)城内ニ建ツ				
○臺灣知縣夏瑚捐貲シテ臺民ノ死屍チ厦門ニ轉送シ遺族ニ交付ス○	一七五九	二十四	九	巳卯
熟蕃チシテ清俗ニ憿ハシ	一七五八	二 十 三	八	戊寅
○臺灣初メテ進士ニ登第スル者アリ	一七五七	ニナニ	七	丁丑

			THE COLUMN TWO COLUMN	
	八	+	4.	〇十八省通志成ル〇文體ヲ矯正スル上論ヲ領ツ
庚子	九	四十五	一七八〇	
	天明一	+	八	
		+	八	〇泉三人分製機區
	Ξ	+	人	
	pu	-t	八	牛理強同
				風雨民屋ラ雲り船舶ラ
	Æ.	五十	八	
	六	五十一	八	爽文 鬩 ナ作
丁未	七	五十二	一七八七	○闘學人分類極闘○美沙蛤仔難蕃地ノ開拓ヲ企ッ○ら、ペーるす蹇
		•		テ探検
戊申	八	五十三	一七八八	小說淫
己酉	寛政一	五十四	八	
庚戊	=	五十五	九	屯蕃ノ制チ布ク〇未
辛亥	Ξ	五十六	九	十三經サ十大學
壬子	四	五十七	一七九二	港ナ開キ巡檢
癸 11.	Ti.	五十八	一七九三	;
甲寅	六	五十九	九	
乙卯	七	六 十	九	乱チ作ス
丙辰	八	嘉慶元	九	吳沙蛤仔難蕾地二入
TE	九	=	九	地租ヲ発ス○楊
戊午	+	Ξ	九	
己未	+	깯		
庚申	+=.	五.	Ċ	

				-
〇林永春飢ヶ謀ル〇七月	一八二二	=	五.	壬午
○海窓林鳥県起尾サ犯ス	一八二一	道光元	py	辛巳
〇海寇威天賜混尾ナ	一八二〇	二十五	Ξ	庚辰
	一八一九	二十四	=	己卯
	一八一八	二十三	文政一	戊寅
○淡水殿(後新竹縣)儒學ヲ創建ス	一八一七	ニナニ	十四四	丁丑
	一八一六	<u>-</u> +	十三	丙子
	一八一五	=	<u>+</u>	乙亥
内二				
沙連隘丁首等大二埔			+	甲戍
○楊廷理ノ開薬野後山鳴瑪蘭説略成ル	一八一三	十八	+	癸酉
ツ				
噶瑪蘭熟蕃保護ノ爲加	一八二二	十七	九	壬申
変亂→謀ル○澎湖	一八一一	十六	八	辛未
場開願サ設ク○まる	一八一 〇	十五	七	庚午
被認	一八〇九	十四四	六	己
	一八〇八	十三	五	戊辰
〇朱濱蘇廖ヲ犯ス〇新修臺灣縣志成ル	一八〇七	+ =	껠	丁卯
分類極固	一八〇六	+ -	=	丙寅
學來リ犯	一八〇五	- † -	=	乙丑
○彰化地方ノ平埔蕃内山ラ越ヱ蛤仔難ニ入ル者アリ	一八〇四	九	文化一	甲子
	一八〇三	八	Ξ	癸亥
○吳沙ノ姪吳化蛤仔難喜地ノ五闔ヲ開キ居ヲ定ム	一八〇二	七	=	壬戌
	一八〇一	六	草和一	辛酉

ノアリ

○ 呼 ス で		年表	編臺
四 成豐元 一八五一 〇鄭尚トイフ者卑南ヲ探 五 二 八五三 〇林供亂ヲ謀ル次デ吳美 五 二 八五三 〇林供亂ヲ謀ル次デ吳美 五 二 八五五 〇林房、王辨相次デ風連 二 二八五九 〇本房、王辨相次デ風連 一 一八五九 〇本房、王辨相次デ亂ヲ によんすい基隆ノ石炭ヲ によんすい基隆ノ石炭ヲ によんすい基隆ノ石炭ヲ であんほーノ臺灣視察 ル 一八五九 〇よろしやノにるべ號南 アニュース五九 〇本房、王辨相次デ亂ヲ があんほーノ臺灣視察 ル ションの のな と で で と で で と で で で で で で で で で で で で	一八六二 〇成豐九年前ニ於ケル未納地	二同治	壬戌
四 成 2 一八五一 ○郷尙トイノ者卑南ヲ探五 ニ 一八五二 □八五二 □八五三 □八五三 □八五三 □八五三 □八五三 □八五三 □八五三 □八五五 □八五五	一八六一 〇全臺麓金局チ設ヶ臺灣道ノ		辛酉 文
四 成豐元 一八五一 〇郷尚トイフ者卑南ヲ探五 ニ 一八五三 一八五三 一八五三 一八五三 一八五三 一八五三 一八五三 一八五三	ノ地質ヲ調査ス○澎湖		
四 成豐元 一八五一 〇郷尙トイフ者卑南ヲ探五 ニ 一八五二 一八五二 一八五二 一八五二 一八五二 一八五二 一八五二 一八五二	ノ結果安平打狗淡水基隆		
四 成豐元 一八五一 〇郷尚トイフ者専南ヲ探五 ニ 一八五二	一八六〇 〇ぷろしやノロるべ號南	延一	庚山 萬
四 成鹽元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南ヲ探五 二 一八五二 □八五二 □八五二 □八五二 □八五二 □八五二 □八五二 □八五二 □	一八五九 ○すゐんほーノ臺灣視察	六	己未
四 成豐元 一八五一 〇鄭尙トイフ者卑南四 成豐元 一八五二 〇鄭尙トイフ者卑南四 一八五二 〇林供亂ヲ謀ル次デ五 二 一八五二 〇林房、王辨相次テ五 二八五五 〇林房、王辨相次デ五 一八五九 ○載萬生亂ヲ作ス○ 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
五 八 一八五一 〇鄭尚トイフ者卑南四 成豐元 一八五二 〇塚尚トイフ者卑南四 一八五二 〇林供亂ヲ謀ル次デ五 二 一八五二 〇林房、王辨相次テ五 一八五二 〇林房、王辨相次テ五 一八五十 〇載萬生亂ヲ作ス〇 曜及動物ヲ研究ス 四 七 一八五十 ○載萬生亂ヲ作ス〇 理及動物ヲ研究ス 四 八五八 ○海寇黄位基隆ヲ犯	- 締約シ樟腦		
四 成豐元 一八五一 〇鄭尚トイフ者卑南四 成豐元 一八五二 〇朝帝、黄九位相次二 二八五五 〇林房、王辨相次デ五 二 一八五五 〇林房、王辨相次デ五 二八五五 〇林房、王辨相次デ五 二八五六 〇載萬生亂ヲ能ノ石 ロハ五六 ○成五六 ○成萬生亂ヲ能ノ石 四 一八五十 ○成萬生亂ヲ能ノ石 四 一八五十 ○成萬生亂ヲ能ノ石 四 七 一八五十 ○成萬生亂ヲ能ノ石 四 七 一八五十 ○成萬生亂ヲ能ヲを言える。	一八五八 〇海寇黄位基隆ヲ犯ス〇英國	五	戊午
四 成豐元 一八五一 〇戴萬生亂ヶ作ス〇四 一八五二 一八五三 〇林供亂ヲ謀ル次デ五 二 八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 二 八五五 ○林房、王辨相次デ五 二八五五 ○林房、王辨相次デ五 二八五五 ○林房、王辨相次デ五 二八五五 ○林房、王辨相次デ五 一八五六 ○載○米國水師提督へ ○八五六 ○本 一八五六 ○本 一八五六 ○本 一八五六 ○本 一八五十 ○ 一八 ○ 一十 ○ 一十 ○ 一十 ○ 一十 ○ 一十 ○ 一十 ○ 一	理及動物ヲ研究ス		
四 成鹽元 一八五一 〇鄭尚トイフ者卑南四 成豐元 一八五三 〇林伊亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 〇林伊亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 〇林伊亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 〇林房、黃丸位相次 闘〇米國水師提督べ ロス五五 〇 本房、王辨相次デニ ニ 六 一八五二 〇 本房、王辨相次デニ ニ ニ 一八五二 〇 本房、王辨相次デニ ニ ニ 一八五二 〇 本房、王辨相次デニ ロス五二 〇 本房、王辨相次デュース ロスカー	一八五七 〇載萬生亂ヲ作ス〇本年ヨリ		丁已
□ 成豐元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四 成豐元 一八五二 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五二 ○城崎、黄九位相次顧○米國水師提督べ □ は豊元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四 は豊元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四 は豊元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四 は豊元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四 は豊元 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	一八五六		丙辰
四 一八五四 〇鄭尚トイフ者卑南四 成豐元 一八五四 〇鄭尚トイフ者卑南四 成豐元 一八五三 〇林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五四 ○賴晉、黃九位相次 顧○米國水師提督べ 回 成豐元 一八五一 ○鄭尚トイフ者卑南四 は豊元 「一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一〇郎一	一八五五 〇林房、王辨相		乙卯,
一 四 一八五四 ○鄭尙トイフ者卑南四 成豐元 一八五二 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五二 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五二 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五二 ○鄭尙トイフ者卑南四 は豐元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四	じよんすハ基隆ノ石炭ヲ調査ス		
一 四 一八五四 ○賴脣、黄九位相次六 三 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デ五 ニ 一八五二 貿易ス商船ノ例ニ照四 成豐元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南四	省へ		
三 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デニ 一八五三 ○林供亂ヲ謀ル次デニ 一八五二 ○林供亂ヲ謀ル次デニ 一八五二 ○鄭尙トイフ者卑南	一八五四 〇賴晉、黃九位相次	 吹	甲寅 安
三 一八五三 〇林供亂ヲ謀ル次デ吳瑳林二 一八五二 貿易ス商船ノ例ニ照シテ徴成豐元 一八五一 〇鄭尙トイフ者卑南ヲ探懐	〇六七月暴		
二 一八五二 貿易ス商船ノ例ニ照シテ徴咸豐元 一八五一 〇鄭尙トイフ者卑南ヲ探検	一八五三 〇林供亂ヲ謀ル次デ吳瑳林	六	癸丑
咸豐元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南ヲ探檢ス	一八五二	£	壬 子
成豐元 一八五一 ○鄭尙トイフ者卑南ヲ探檢ス			
	一八五一 〇鄭尚トイフ者卑南ヲ探檢ス	LF.	辛亥
三十 一八五〇 〇六月大風雨	一八五〇 〇六月大風雨損壞甚シ		庚戍
一八四九	一八四九	二 二 十	己酉
一八四八	一八四八 ○英國海軍中尉ごるご人基隆	_	
一八四七 〇鐘阿山、鄒戅狗、洪紀等相	一八四七 〇鐘阿山、鄒戅狗、洪紀等相	_	丁未

R也与7.也質が開発でつ割束息うが投え 〇がつび一ハ打狗山附近ノ地質が調査シ叉くらいんうにひてるへ 語ニュー諸國ノ警衛ノ南中北三郎ニュ兵の進つ者地開発ノ語の教				
	一八七四	十三	七	甲戌
	一八七三	<u>+</u>	六	癸酉
	一八七二	+	五.	壬申
				•
	一八七一	+	四	辛未
	一八七〇	九	Ξ	庚午
	一八六九	八		己已
	一八六八	七	明治一	戊辰
ヲ採買スルヲ准ス				
るずいや號南岬附近ノ蕃人ニ襲ハ				
政府ト交渉シ蕃頭目ノ謝罪ニョリア				
〇米船ろデぁ―號臺灣ノ南岸ニ漂葉	一八六七	ナ	Ξ	丁卯
○英艦ご─ぶ號南岬附近ニテ蕃人、	一八六六	H .	=	万 寅
○英人ごつご大ニ臺灣ノ茶樹栽培ヲ皷勵ス	一八六五	깯	慶應一	乙丑
	一八六四	Ξ	元治一	甲子
んほーノ臺灣				
〇福州	一八六三	=:	Ξ	癸亥
スコト甚シ〇全臺團練ノ制ナ施行ス				_

十五		表	海年	·
苗栗ニ建ツ○東勢角方面ノ蕃社チ直轄下シ媒務局ナ設ケ採炭テ官業			-	-
○藩や改置ノ州設ニ背手ス○四県サポスシ州岸及で南洋ノ制通ナ計布ク○藩電書院チ臺南城内ニ虚ツ○大岩県 方面ノ蔣社チ討ツ	一八八七	ተ 드		了
ケ金品ノ田関文量ニ著手スの海銀局チ設ケ蕃學堂チノー語・名手と前の				***************************************
設ケ全島及福州ニ電線ナ架シ及ビ電報學堂チ設クへ				
兵備ヲ擴張シ确	一八八六	+	十九	丙戌
新二著手ス				
新ニ雲林苗栗二縣ヲ設ケ隣東直隸州ヲ置ク○劉銘傳聲靜巡撫ニ任ズ				
○臺灣サー省トナシ臺北臺灣臺南ノ三府トシ臺灣縣サ安平縣ト政メ	一八八五	+ -	十八	乙門
サ立ツ				
響佛軍臺灣島ヲ封鎖ス○培元總局ヲ攺メテ關線總局トシ又浜關ノ制				
討ッ	一八八四	ተ	十七	甲申
	一八八三	九	十六	癸未
○英國ノ博物學者ぎるまるご臺灣ノ東岸ニ上陸サ武ム	一八八二	八	十五	壬午
○窪束ノ平埔藩サ討ツ○國練總局ナ攺メテ培元總局トス	一八八一	七	十四四	辛巳
ソ〇毫北府	一八八〇	六	十三	庚辰
○臺灣地與闖說成ル○淡水縣儒學ヲ創建ス○化落俚言成ル	一八七九	Ħ.	+ =	己卯
拓	一八七八	四	+	戊寅
春知縣周有基等紅	一八七七	Ξ	+	丁丑
サ討ツ○ロごわーご、はうすノ征臺記事成ル				
社サ討ツ	一八七六	=	九	丙子
ルノ禁ヲ解ク				
竹縣、噶瑪関廳ヲ宜関縣ト改4〇春冬二季福建巡撫分駐ス〇番地ニ				
○臺灣臺北ノ二府トシ卑南隠及ビ恒春縣淡水縣ヲ新設シ淡水廳ヲ新	一八七五	光緒元	八	乙亥

			* 4 * \$		
壬辛庚 己戊丁丙 寅丑子亥戌酉申	乙甲 未午	癸壬巳辰	辛卯	庚寅	己戊丑子
三三三三三 十十十十十三十 五四三二一十九	二二 十十 八七	二二 十十 六五	二十四	ニナミ	
二二二二二二二 十十十十十十十 八七六五四三二	- +- -+	十十九八	十七	十六	十十五四
一一一一一一 九九八八八八八九九八八八八八八八八八八八八八八八八八九九六	一八 九 五 五	一八九二	·八九九一	一八九〇	一八八八八九 九八八九
	景崧等臺灣民主國ヲ建ツルヲ企ツ○下ノ關條約ニョリ臺灣ハ我が國ノ版圖ニ歸ス○巡撫唐景崧防辨劉○南壮縣ヲ設ク○各廳縣釆訪卌成ル○唐景崧代リテ巡撫ニ任ズ	ノ毫彎報文成ル明道書院ヲ臺北ニ崇基郡都芒蕃祉ヲ討ッ〇欽差年	是ニ至リ中止ス〇弾友源巡撫ニ任必積極的政策ヲ縮少ス〇砂金局ヲ〇牡ニ審社ヲ討ツ〇、毫縛談道ノ延長基隆ヨリ臺北ヲ經テ新竹ニ至ルプ	社丹養社を討ツ○銀貨を	対ツ○臺灣府儒學ナ蹇中城内ニ創建ス又考棚及宏文書院ヲ建ツ○老狗蕃社ヲ討ツ大嵙崁方面ノ蕃社ヲ討ツ次デ臺東ノ呂家望蕃社ヲ飢ヲ作ス○基隆埔里社ニ瘾ヲ置ク○臺東ノ平埔蕃ヲ討ツ○らくへり−ノ臺灣記成ル○清丈ノ結果地租稅率ヲ攺定ス○施九段

則

本年表に記載したる事實に就き一々引用書目を揚ぐるは索引の便少からざるも此の限りある紙上の能くすべ歴史上の事蹟は文書の徴すべきもの少なく年代が放へ難きが以て省略せり本の職人據肇の當年に起し臺灣の我が國に割譲せらる「に至りて擱けり其關人據臺以前に於ける

避けで省略せり。 臺灣の清國の治下に歸してより以來局に當りし知府縣等の進退、孝子節婦等の旌表は舊記に明記するも煩な きにあらざるか以て之な省略せり

諭

訓順 も紳以以以以以以以以八の董明免禁厚崇情息重條

第第

四條

第第五二 條條 各尊 安敬

生長 理上

第第 六條

莫 和

作睦

非鄉 爲里

順

治

六

年)

康 年

朔十十十 望六四 軍條條條條條條條條條 堂身催善民愚士衣雍に命科良志頭習食睦

十八

め右

し有

民

集

宣聖十十十二語論五三二

て兩第第第第第第第第

せは條條條條條條條條

め司聯誠訓明黜尚和敦 た並保匿子禮異節郷孝 るに甲逃弟讓端儉黨弟

な等盗株非風正財争人 を賊連爲俗學用訟倫

月第第第第第第第第

衡比較表 覽

◎度

寸毫名 秱

尺の古分一

尺釐名

稱

尺の千分 一位

ょ り其比較 んとする 如何 を示す せん内地の如く一定の率なさにより、

尺一寸入一寸

取なり、尚數語二寸二分五厘 二寸二分九厘 二寸二分九厘 二寸九分八厘

部に用ゆ)

般なり、

同

種類 あるも各地不同なるを以て之を略す

生は全島殆んど

二尺許

里

千步

舖 十里

至灣 形勢似質

〇度量與比較表

十九

八は 咖 聞 元 **从** 殖 所 產 尺とし 步 を内地 通 とすど、 丈 を一 町として換算 の一間とせば、 寔 里とすとあ 之れに より 7 確 來 卽 9 9 5 して ッたるものを多しら一里は我五町三 起 內 せん 里は我五町 步 地 化五 歩を内 比較 我 叫 地 す 間 3 12 ح 稱 ع

其十萬 始分分積

申

數

0

出

かめを

換調し、

沓.

規則

一條により、一戈と稱し、

甲は我九反七畝二十四歩餘に該當するなりよりて我一丈三尺と規定せられたるにより、稱し、二十五戈平方を一甲とするなり、而を弓數に取り、戈數に及び、以て算出す、一

而し

て其

之を内

内地の反

卽

ち五

を

するとさは、

我二 に 一十 取 甲 毫

甲 -の千分

甲

釐 の百分

斗の千分一 **◎**量 分

によ同 6 斗の換 査せ 12 斗因と十斗のりす斗の 3 左 12 り要類 タを示する まする まする ますく、 到百斗の十 定 の率を得

は位斗勺

の未全る右 を斗島能斗 を通じ、はざるこ 公方斗 て白米 滿米用 地 式 斗元 米玄殖地斗米產式 等用課に 尚雜調算石合 十穀 數用 稱 め種 合五 9 あ概 に當るも 7 種 別あ 9 官蘭 3 12 B 米 斗 新 は公 樣 臺南 0 B

+

右

0

二タ

(臺灣製

60

るもの

商平

とあり、 要するに白米斗は なるは六升七 なるは六 なる 四 般に玄米雑穀の 升 (彰化鹿 彰 勺 港 の兩斗に比し小彡・ (牛馬頭) 合七 る ર્જુ જ より小なる 中 形なりとす 雜穀 外五升 は 合七 苗 合七勺 栗 五勺 打

◎衡

斤分 十萬分

9

後法に三

担あ

砂

糖

樟腦、

茶、

石炭等

大取引に用

ゆるなり

别

b

即

ち

余

12

は兩を

7

魚肉、

米薪、

酒醬等の賣買には斤

斤

六

兩

左に元殖産

葯課

品の

九用

のも

奴

分

厘六毫

調

查

17

因

9

内地式との

比較を示す

担錢

0

百兩兩

萬分

0

+

兩釐

兩の千分

商秤兩 九タ九分六厘

用 七匁二分 るもの (清國製

天普厘平通戥

商

家

40

百に

天平

百五十五匁

(臺灣)

一使用法を異にし、 百斤に對し五斤より三十斤を加へ、 以て取

引するものあ

の十分の十万万円

元其即 の差右 來製洋 稱異は 清鑄銀元點末呼を銀錢厘絲 生ずる の重 量兩兩兩 なり ĉ 通格 取の 引稱 に呼 於と兩分毫 な 於 ては殆ら りしも

んど洋銀を以

Ö

なる

8

のて標準度とい銀質の如何に

ゼ

る

カゞ 9

如

ょ

T

其

個

洋格

兩兩 の百萬

分分

百萬 ふ角 錢厘 元元 の十分の千分

に於て貨幣 t T りて其信 は 殆 に利するは、信用即價格に必内地銀貨 銅に制 錢高 0 低時 あ 一角 (単数) を以て 同 な 如此で質 領臺以前は各 單際 0 に洋銀にて辨じ能はり官定貨幣とす、な 秱 0 圓 銀

も格元其即のの來製洋

业

は之に基

地

12

12

就

圓錢毫

0

銀

を謂

十十に標ケ毫通準

用

ક

銅の 錢 な 3 呼

12

百ヶ 錢錢の

元點末

故に質

流用

臺灣		假二	澎湖中	総	造淌	臺		Ŀ		溢	Ħ	A S	菱	٢	Ŀ.			
臺灣形勢便覽	〇第	假ニ調査シ得	澎湖島屬島四十七妻中居區及區卷八	計画			爿	Ħ	〇第	多島	马	ř	鹭	爿	Ħ	〇第	第	
0	Ξ	タル分り	二锥		四七	完	用主要	马音文.		"	W	極四		方位	om.		一門	重要
重要統計	田	ノミチ掲載	N ,	•	1)0-00	ニカカ・セニ	本	周	周	花嶼	陽嶼	國聖經四方砂洲西	羊頭	地	經	經	土	統
	圃	ス	面積ハ未				圏	/-9	園及	西	東	力砂洲西部	島東	名	度	緯度	地	計
			周圍及面積ハ未タ調査サアセサーマンニ非ラス	4 <u>1</u> • Cal	110- 監盟	五二		·	面質	端ル	加加		端 東經	度	極	極點		
			N	ヨカニ・七五	四0 - 四四	量	合	圍		1 20 20	二九一豐	11:0-0M	是多	數				
			モノ多ク其	当		=	本〉			n	n	極北	極南	方位				
	(明治三		八全體 チゼ	· 三	か	宝三	島	面		目斗	大燠	アザン	南岬	地	緯			
	十二年十		物クル能				圆			嶼	噘	アゲンコート島北端	岩礁		度			-
二十三	((明治三十二年十二月末日調))		ハサルチ	* •	冷 ·	, ,	島	>		端				名	極			
	調)	•	全體ヲ揭クル能ハサルヲ以ヲ本表ニハ			<u> </u>	合	稜		"	"	北緯		- 1	點			
		. ·	ニハ	二、二六七・五七	四	ラ	計			量。	三	莹 壳	三度	數				

桃	深	宜	基	臺	廳				明治	明治	年
仔園	坑	蘭	隆	北			本島田	本表ハ	明治三十	明治三十二	
廳	聪	廳	廳	廳	名	○第	ルガル	實測,	一年		次
桃淵保	文山堡		文山堡ノ内	大加帕		野四	本島田風ノ一甲ハ内地ノ九ラン叉遊湖廳ハ調査チ膜ク	・モノ		-4-	
等	文山堡ノ内	澤簡堡、黄城堡、真山		堡、		14	四地ノの地の際	ニ非ラ			
桃淵堡、海山堡(图1)、竹北二堡ノ内	(基隆頭所)	· 茅仔寮堡(图) 上、大坪庄、稻		大加纳堡、芝蘭一堡、芝蘭二堡、	管	廳	本島田鮑ノ一甲ハ内地ノ九反七畝二十四歩ニシテ即チ二千九百三十四坪ナリラン又澎湖廳ハ調査ヲ陜ク	ス而シ	三六六里•八	二〇八、七七九・七六	H
日子	味り)	堡民庄	三切	堡、	Ħ	廳ノ管	畝二七	ラデ前に	五八八	が。芸	144
竹北		一 堡潭、庄		之關二		轄區域	一四步	キニ 對			
一堡ノ		浮洲堡、	石碇堡	坚		域	ニ シ テ	シ著シ			
內(新			石碇堡(图1)	握接堡	轄		即チー	キ波小	次、04二・10	四个一七二十二	圃
(新光殿)		四開堡、京		與直堡、			一千九	ンアル		三	
_		頭圍堡					百三十	ハ蓋シ			
				鄭三保	e e	十三十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	四坪士	調査上			田圃
		羅東堡、一		考	hir	十四	ÿ	一种步	九兲	さ	兩
		二結堡、		半全堡		日年府会		武尹進	九三六三・八〇	六号できる	用
		清水		芝蘭三堡、八里全堡(各一)		(十一月十一日府令第六十六號)		本表ハ實測ノモノニ非ラス而シテ前年ニ對シ著シキ減少アルハ蓋シ調査上稍歩武ヲ進メシニ起因セルモノナ			
		清水浩堡、			域	十六號		起因、	_		合
		紅水溝堡				ت		セルモ	四百01-21	三方二元0•二六	닯
		港堡						ノナ	- - - - - -	今	। व

|新埔街、四座屋庄、上樟樹林||竹北二堡ノ内||(各一)

上樟樹林庄、下樟樹林庄、田心仔庄、新芎田庄、五份埔庄、六股庄、米汴頭

į

新

大坑庄 脚庄、下山脚庄、下鳳鼻尾庄、羊鬟港庄、田心仔庄、外湖庄、拔仔冠庄、崁仔脚庄、竹園仔庄、后湖仔福興庄、大眉庄、下鳳山崎庄、坪頂厝庄、田九厝庄、車路頭庄、東勢庄、山邊庄、頂山 **回山庄、** 坪頂埔庄、 員林仔庄, **陂**仔頭庄、古山仔頂庄、古 松柏林庄、青埔仔庄、德盛庄、 **笺南篇座,望高设庄、竹窗屋庄、瓷斗屋庄、** 石坑仔庄、新打坑庄、 坑仔口庄、 頂樹林仔庄、 赤頭草庄、 埔頂庄、后湖庄、 打鐵坑庄 和與庄、 田尾上、 西湖亭生、 尉陂下庄、北高庄、 戴箕高庄、 '鹿鳴坑庄'内立庄、石頭坑庄、三角塘庄、旱坑仔庄、 上崁頭厝庄、 鳳鼻尾庄、下樹林仔庄、 崁仔脚庄、 下外湖庄、 一股稲興庄、 風山崎庄 中翻皮湖庄、半路店庄、上坪頂埔庄、 **王爺壟庄、埔心庄、上北勢庄、** 下崁頭厝庄、中崙庄、大竹圍庄、 圓山仔福與庄、槟榔仔福與庄、 新庄仔庄、大埔庄、茄苳 黄犁圍庄、箭竹窩庄、

苗栗一堡、苗栗二堡、苗栗三堡(图)

崁頂庄、崁頂厝庄、后面庄、枋寮庄、大平窩庄、土地公埔庄、

犁頭庄

苗

顱

『覃腐庄、辛屋庄、辛屋内庄、埔尾庄、厝西坪庄、上新庄、竹園仔庄、老庄、楝東上堡ノ內 藍與堡(川)、猫羅堡ノ内(影風,除き)(川)、棟東上堡ノ内(所屬,除き)(川

中街庄、

溪州社

連員墩庄、暗山庄

臺

中

廳

楝東下堡、大肚上堡、大肚中堡、大肚下堡(俻)

線東堡、線西堡(番)

田中央庄、快官庄、竹巷庄、風吹厝庄、番仔田庄、猫羅堡ノ內

彰

化

廳

两堡、深耕堡、二林下堡<u>(各一)</u>屬芝堡、二林上堡、燕霧上堡、 | 燕霧下堡、武東堡ノ内(所屬ヲ除ク)、武西堡、東螺東堡、東螺風吹厝庄、番仔田庄、石碑坑庄、大埔頭庄

二十五

南投堡、北投堡、集々堡、沙運下堡(图

南

投

点 武東堡ノ内 庄、 井仔 頭 正、 **厝庄、粗坑庄、** 松柏坑庄、 弓鞋圧,二重啪庄, 山林虎庄、土地公崎庄、姜仔園庄、 皮仔寫庄 頂寫大庄、下竹帷庄、 木屐崙庄、崁仔脚庄、 大溪流庄、鹿鳴庄、藍口庄、 施厝坪庄、 『遠庄、鹿鳴庄、藍口庄、赤水庄、過坑仔庄、三條崙庄、大車路庄、 横山庄、 樟普嶺庄、大竹帷庄、

泉洲驀庄、草尾崇庄、下坪庄

埔里社堡、北港溪堡、五城堡(图)

斗六堡、溪洲堡、他里霧堡、沙連堡、

鯉魚東堡、西螺堡(番一

)、打猪東頂堡(腐スル分)

大糠榔東頂堡、

尖堡、海山豐堡、

布嶼堡、

大丘田東堡、

白沙墩堡

一各打

|猫北壁(舊雲林縣三)

斗

廳

園)、蔦松堡(塔雲林縣二 嘉義四堡、嘉義東堡、大目根堡(各一

打猫北堡(舊華義縣二)、打猫西堡 半稠溪堡、大糠榔西堡(圓)、打猫東頂堡(舊嘉義縣 打猫東下堡、打猫南堡(各一) 、 蔦松堡(廣スル分)

嘉

義

飉

田西堡、大熊树東下堡、鹿仔草堡、柴頭港堡(個一

鹽水港堡、大子宮堡、鐵線橋堡、果穀後堡、哆囉阿東頂堡、哆囉啊東下堡、哆囉飅西堡、

善化里西堡(舊嘉義縣二) **孝南堡、下茄苳北堡、** 二)、赤山堡、茅港尾東堡、茅港尾西堡、佳里興堡、漚汪堡、蕭壠堡、西港白嶽公潭堡、龍公潭堡、學甲堡、蔴荳堡(图一)、善化里東堡、鷹スル分白嶽公潭堡、龍公潭堡、學甲堡、蔴荳堡(各一)、善化里東堡、舊嘉義縣ニ

任堡(各

鹽

水

港

膸

事南市街、效忠里、新昌里、永寧里、仁和里、文賢里(鷹スル分)。)、依仁里、崇德西里、

大垃

廍項 下新

廳

南里、

仁德北里、

長興下里、長興上里、

永康上中里、

永康下里、

大目降里、

廣儲東

外新化南里、

)、善化里東堡(舊

| 不縣ニ圏 外新豐里、永豐里、歸仁南里、歸仁北里、保西里、保東里(魯一分)、

羅漢外門里、嘉祥內里、 操總東里、羅漢內門里

楠梓仙溪東里(图

港西上里ノ内

莕

薯

藔

廳 **地庄** 龍吐庄、河邊崇庄、 月眉庄、 龜闕庄、 合新庄、 新威庄、新墓庄、 竹仔門庄、龜山庄、旗尾庄、 竹園庄、 **莿**仔寮庄、 莿桐坑庄、崁頂庄、九芎林庄、竹頭角庄 **崙仔頂庄**,分仔里庄、 秋中溪庄、 竹山溝庄、

觀音中里、觀音上里、嘉祥外里 大竹里、 鳳山下里、鳳山上里、 小竹下里、小竹上里、觀音內里、觀音下里

長治一圖里、 文賢里(廣スル分 長治二圖里、

維新里、

仁壽上里、仁壽下里、

华屏里、

興隆

板產厝庄。 竹維庄、

寨仔庄

鳳

山

廳

(外里、 與隆內里、赤山里 圓各

廳 港西中里、港西下里間、港西上里ノ内 (屬ヲ除キ)、港東中里、新園里、港東上里、港東下里、藩署寮廳所)、港東中里、新園里、港東上里、港東下里、

琉球嶼(各一

阿

猴

恒

臺

東

春 廳 里、善餘里、嘉禾里(图 宜化里、德化里、至厚里、 安定里、 長樂里、治平里、泰慶里、咸昌里、永靖里、仁壽里、

廳 南鄉 魔鄉、 奉郷、 新鄉 蓮鄉(图) 紅頭嶼、火燒島

臺灣形勢便覽 ·O重要統計

ニ十七

與文

澎 湖 廳 灣、南嶺灣。林投灣(個一)四嶼灣、通粱灣、瓦桐灣、 赤崁灣、 鎮海灣、 吉貝灣。 網按灣、 水按澚、 東西灣、蔣裡灣、

五 臺灣總督府地方法院及出張所管轄區域

(三) 十二月十二 年府令第六十七號)

臺 名 北 地 方 法 稱 院 臺北廳、基隆廳、宜蘭廳、深坑廳、桃仔園廳、新竹廳、苗栗廳(一圓) 轄 區

臺北 臺北地方法院新竹出張所 地方法院宜蘭出張所 臺北地方法院管轄ノ内 宜闕縣(各管下) 新竹廳、苗栗廳(各管下)

臺北地方法院管轄ノ内

地 方 法 院 臺中縣 彰化顯、南投融(各管下)

地 方 法 院 ·臺東縣 斗六廳、嘉義廳、鹽水港廳、臺南應、蕃薯寮廳、 澎湖廳(各管下)

鳳山廳、

阿猴廳

恒春廳

臺

育

臺

中

臺南地方法院嘉義出張所 臺南地方法院管轄ノ内 斗六廳、 嘉義廳、 鹽水港廳(各管下)

臺南 地方法院鳳山出張所 **奎南地方法院管轄ノ内** 鳳山鷓、 阿猴廳 恒春廳、 臺東廳(各管下)

臺南 地方法院澎湖 ○第 出張所 測候所名稱及位置 臺南地方法院管轄ノ内 遊湖廳(管下)

(明治三十四年十二月末日))

Digitized by Google

域

率		臺南		臺北	地名		醎		春	南	中	北	地名		創	洪田	丧	臺南	ф	HE.	名	7
灣形勢便監				元			雪ノ県	七四天	一三•五 空•	七九 罡•	七-五 10六-	☆ 四一次()・五	一月 二月	〇第	立年日	測候所	測候所	測候所	測侯所	和測候所	有	驿
〇亩	四	ж.	· =	五	月									七	觀測開始	嫣公	恒	臺		臺	所在	位
要統計	-	=	깯	八	三月四	雨	いサラ耗	八九九	七五五	10至•六	七•六	門•三 三三1•0 三三八•五 三	四月一	雨	,	城	春	南	中	北	地	
	=	=	<i>ਤੋ</i> ਪ	七	四月	雪	ニテデス	宝九 1	些· 二	三量 九一	野·	三八九	五月	雪	日ヲ揭っ	一元。	110-四	1110•111	1110-210	三章	東	}
	11	Ξ		六	五月	H	而	三六	玉	0	£		六月		1	[24	せ	=	0	八分		
	节	<u>]</u>	10	云	六月	數	,其最多	₹	壹光•二 :	四三八・四	三〇九•五	中 101•二 二元()•三 三二十	七月	量(달• 를	11:1-0回	三•轰	를• ():	三重 Ga		置
		=		Æ.	七月		ハニナ	一	八四•三	宝金•大		元(作)	八月	平均)			•	•		,	計	海面
	긆	引	亓		八月		四時間二於	53	=	ô	껃	が耗力	月			∴ 0	110°£		0-14	地場	A	上晴
				=	九月		J		10.七 六	か 六 二	11-11 11	元 № 10	十月 十月			同	同	同、	同	西部標準時	村道	
	丰	八	3 .	110	十月	領	雨雪量ノ	七-六 三-三	亭 八个	不 0 元	- × 11	三、	月十月	(i)		同	同	同	同		H	
二十九	של	Æ.	z	10	十一月十	治三十二	ル雨雪量ノ最モ多キモノヲ載ス	•三 八九七•七	·0 元10m·中	-三一三宝四-七	-1、公里-0	•四一九四四•八		治三十二				=		明治二十九年八 月 十	介置	
	三	Æ.	四	10	十二月 全	· 二 年)	ノチ載る	1七四-二	_	五一。四		三元和	最多	年)		十二月二十一日	二十九年十一月二十日	十年一月一	十二月二十日	入月・	当年	
	垂	10:1	114	一类	车			五•六	각	せ・せ	五。二七	か一言	月同日上	! -		日日	十日	日日	十日	日日	E	3

三十

臺	宜	臺	臺	臺	爿	į					澎	恒	臺	臺	臺	地	•	,	澎
東	躑	南	中	北	ナ	j .	•		載ス								•	雨雪日	湖
르	七三八	四、九九七	三七六	三元共	男	內	○第	第二		セス算入シ霰電ハ降水	湖	春	南	中	北	名雨	○第	敷ハ	땓
五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	豆	1,504	1000	大量	女	地		門		快晴ハ	兰	二宝五	10:1	114	一类	兩事霰雹	九	雨雪等ノ降水量「耗」	שלכ
四七二	1.011	4.50年	五,〇二九	八五三	計	人	現住	戸		雲量ニノ十分	_	-		-0	^	電電	天氨	黒毛ノ	三七
三三三十六	五三、五四九	五六六二	中中四四四四四十四四四四四四四四四四四四四四四四四十四四十二四四十二四四四十二四四四十二四四十二四四十二十二四四十二	 元子登	男	本	人	口		下曇ハ	르	孟	111	夳	츷	雷	日	十分ノー	Ξ
11111111111	四四、九七五	四四三、九五八	三六九、五八三	三宝宝 英〇天	女	島	口			平均雲量でアリシ日散							數	以上ナルロ	=
四八十0七	九八五云	力力七、七宝	· 711080	-F.	計	人				八以上ノモ敷電雷ハ電	=	1	110	孟	큿	霧		ル日數ノミチ揚ク	*
三宝、六九二	五四二八七	三二六 六	四四五、一九三	四四八八八	男	合				ノ暴風						快		- 掲り	七
二号、四八大	西门公	四四六三宝	是0.75%	壹二八四	女	}	(明治三十			一秒時間の数セルモ	=	四三	四七	五〇	=======================================	晴	皏		五.
四九二七八	九九、五四七	四四六二字五 1、00五、1七九	ハー六〇七九	七宝九三	計	計	明治三十二年十二月末日》			ハ一秒時間ノ速度十米以上ノモノヲ揭共愛セルモノ霧ハ濃霧ノミ霜ハ其厚薄						憂			2
四九 〇五	<u> </u>	門・七		五一九	内地人	男百二付女	月末日)			米以上ノ霧ノミ霜	041		仌	卆	卆		治三十二年》		=
九一九四	心 。	사·등	스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스 스	- - - - - - - - - - -	本島人	一付女				モノヲ揭ア其厚薄	超		中	莹	픗	暴風			받

•	同同明		三三總 澎
表 明中 治	治年三三三	本 本 ハ 表 同 明 表 表 七 中 三 治	三三槐澎十二年計湖
○第 三 五千人以上居住セル地及著名市街地ノ現住戸表中×ヲ附スルモノニハ恒春撫墾署管内ノ人口六千三百九十七人(男女不詳)ヲ算入ス明治三十一年ハ臺庠縣下東淺海州庄阿猴ノ三朔殺署竝宜襲廳ノ調査ヲ隣カ	十十十一二號第	本表ハ本島駐在ノ軍隊員ヲ算入セス 本表ハ蕃社ノ現住月日ヲ含有ス ハ七千三百八十七人ノ男女區別調査ナキモノヲ算入ス の七千三百八十七人ノ男女區別調査ナキモノヲ算入ス 同三十一年ハ肇南縣下東港、潮州庄、阿猴ノ三辨務署竝宜閣廳ノ蕃社月日及臺東廳下紅頭嶼ノ調査ヲ闕ク明治三十二年ハ臺東縣下東遜、潮州庄、阿猴ノ三辨務署竝宜閣廳ノ蕃社月日及臺東廳下紅頭嶼ノ調査ヲ闕ク	1七、七六八 1二、大六二 1二、十二 1二、1二 1二、1二 1二 1
ルモノニ	年年年二二	在ノ軍隊 ルモノニ 一七人ノ男 一本人ノ男	10、七六 七八二七 七八二七
五千人 五千人	番 社 社	大 大 大 大 大 二 高 り は 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	当 三 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 二 二 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
五千人以上居住セル地及著名市街地ノ現住戸口恒春撫墾署管内ノ人口六千三百九十七人(男女不詳)ヲ算入スだ淺ッ州庄阿猴ノ三朔殺署竝宜襲廳ノ調査ヲ隣カ	現住	本 ・	大・三・1 1、五・1、八・2 1、三・1、七・1 1、1 1、1 1、1 1、1 1、1 1 1
住セル	?	ノ ラ 算入 ス	二五十十六二三五十八八八五五十十六
地及著三百九十二	現	がない。	二十八二二二二 □ 大大四、五二二 □ 大大四、五二二 □ 大大四、五二二 □ 大大四、五二二
名市街	住三宝元戶	ノニハ六	二六二九七 一四八七二六八 一四八七八八五 一四二七八八五
(明治三十の)の (明治・元十の)の (明治・元)の (明治・	万 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	千三百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百八五百	1、二四三、七九七 1、二五五、八二四 1、二五五、八二四 1、二五五、八二四
(明治三十二年十二月末日))地ノ 現住 戸口不詳)ヲ算入ス	整 現住人物 現住人	十七人又 ^ 飃下紅頭。	* エー・ エー・ エー・ エー・ エー・ エー・ エー・ エー・
月 末 日)	現 住 人 口 完	△サ 附 ス ル	元 野 野 英 ・カ ・カ ・カ
	宝文(O)皇 安文(三)皇	モ関ノクニ	及 交 表 表

		竹北一	<u>.</u>		山	蘭三		文山		隆		直			大加纳			鱼里	
		堡			堡	堡	_	堡		堡	堡	堡			堡~			名	;
九	北	樹	舊	新	大	滬	新	深	录	基	士	新	錫	大	大	艋	鼜	址	
夢	埔	杷		竹	料	尾	店	坑	尾	隆	林	庄	П	龍	稻		北		
林		林	موادر											洞	-141	fini	城中	名	
街	街	饵	港	街	铒	街	街	街	街	市	街	街	街	街	埕	舺	內		
	=	534	얻	一古四	三	七	<u>-</u>	=	六	四次九	七	元	六	땓	五三()	芝	元宝	戶數	內
Ŧ.	景	四八	==	五四八	玉	四至	110	元	四二	1、玄1	<u>_</u>	芫	110	Ξ	九七八	一、公路六	四元三〇	男型	
1	==	ナロ								充								住	地
五.	六	五七	豆							그름드								Í	
一四六	讀1	i 공 8	吴	弓豆豆	中0:1	二汽汽	프	10 <u>2</u>	二八四	一三四九	四二二	一二四六	贸 八	中门	七五二六	11.4110	一堂	戸數、	本
피니퍼	七九	お言	등 ()	八二屆	一七五九	二、九三二	四八二	買	景	四、〇九九	宝汽	<u> </u>	1至00	1,020	ーち、ナハ六	1=70%	五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、二、五、二、五、二、五、二	男母	ı e
元六	六	杏〇	三五元	八分元	一、公皇	二、五七二	夳	三四六	五五三	二六二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	17計10	二五八四		<u> </u>	一三、九二九	ひ室	四	女 女 人	
交免	1.501	13 <u>54</u>	五九九	一次记时	三五二	五0年	1.1 9	िरिदे	盐	4.0三六	六八八	五、四五	六九三	三三	三七五	11071111	七九五		

Ì	1																			
	1	ti	Ė	Ï	•				•								大			温
臺灣影	i	是二		E -	山	標棚	連	六	里耐	耕	務下	螺面	芝	東	肚下	肚中	肚上	Į.	<u>.</u>	與
心勢便	1	圣	1	ie.						_				堡					_	堡
P. C.	大大	大	~ 後	古古	新	北	林	斗	111	否	A	北	M	彰	塗	梧	4:	~ 東) 訪	蓬
	#2	Ħ	松	स्त	缕	3.集	相	ula As	里	挫	林	깘	法	412	葛) ::		勢	AL.	中
要統	A	Т	-65	>13	1 4	1 🛈	i _i j	•	献	ت	W	-1	, 12	n	堀	436	Ħ	角	墩	城
il S	港	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	街	内
	=	Ξ	四	四六	=	10	灵	咨	<u>====</u> .		_	깓	兲	<u>1(</u> 2	=		三	10		玉四九
	五.	元	<u> </u>	一完	<u></u>	ち	卖	三二	仌	10	一七	14:1	九六	芝	쪍	ナロ	呈	灵	52d 52d	171140
	=	Ξ	10	11七	1	Ju	=======================================	=======================================	四大	1	四	五四	110	一类	10	=	八	セ	를	吾
	- L	蒄	프	云尖	Œ	兖	四七	四旦		10	=	尝	二六	四八八	浜	Ξ	<u>.</u>	壸	七六	1、20人
	183	室	五型	公心		二系	公(景名	11	四元	五二	八宝	平型0	- ; <u> </u>	11	五式	清温	图10	八九()	八字O
三十三	三三	一至九	五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	で記	七五二	三六七五	1、公共	三公公	七七七	一四九二	一二二二三	六九三五	カウン ・ ご ご ・ で ご ・ に に に に に に に に に に に に に	七〇三六	三次	1、八宝	三天		ででは、	1元号0
)1)	B10	て買え	一、五七九	三元	ж. О	六会	1.400	1 3.7	宏七	二式	1,031	完	ろうろ	五九六	一六	五公	オカバ	1,0元中	大三型 0	一一一
	立三	4:10:14	中一品	二、大声四	二 元 元	完工	丰芸宝	马氨	一是居	ニスセ〇	马克灵	五、四六六	乙宝	三%空	五五二四	号 80	ラニメ	二六0	四次宝	号11:

版	種			東	蓮		利	雞	頭	本	大批		嘉	ं	東	内大里林	大	多	改
竹製		-	æ.	西			評簡	東	別	泧	医椰瓜	水港	義四	化	港中	— 1. 里 光	竹	j	は
造	Bij	○第	第一	湧	鄉			墾									里	_	₹ E
本				嬀	佗	阜.			頭	宜	樸	随	嘉	恒	뱟	打	鳳	安	臺
本品人			門	宮	蓮		油	東	iai	闒	仔	水	義	春	渃	狗	加	45	南
		潜文	营营	城	港		10	//-	P.331	城	脚	沱	क्ति	क्त	, ,		城	•	市
		祭		內	街	南	港	湴	街	內	街	街	街	街	街	港	內	港	街
:	臺北	取締二任	察		セ	空	110	八	三	空	-난	110	灵	퇄	=	公	三景	25	자 응
Ξ	臺中	ボル營業		马岩	丰	글. 12년 12년	르	茶	瓫	賣	四年	当	鬥	1111	仌	芸儿	二七	景	一、七八五
	臺	班		三	Ξί.	 PЧ ブロ	二六	110	J u	二公	I	Ξ	二七四	£.	E O	兲	元	五	二二四六
老	南			五.	≅4.	蒄	ह्य	癸	<i>7</i> \	五.	ЭН.	古	七二	灵				<u> </u>	F()(1)
	宜			±i.	0	P.J	-67	次	8:4	م. م	<i></i>	-6	_	=		٥	-11.		
	期 率	(iiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii		ज्य. इ.स. -ध्र		-t-	\equiv	套	五	7,700	一覧	三五五	PH CH	三	171110	七三三	一、公公	九二	10312
-	東	治三		175	芸	五0七	i)	五::0	1,04%	六、岩六	四大公三	马西次	75.	四九四四	马七空	一次公	号單字	ニゼー六	三、公六
	澎湖	十二年》						一宝次											
界	合計	•	-		四七五	八四七	四三	복 9 2 2 2	三分三		七八八七	六四八七	一一元	公	六九弘	三の大力	含 三	四、九八八	四月四五五

4					WEEKL 12		000.00		20.20						3.3/20		-
Christian	居	駕	人	Æ	i H		野	菜	는 H 120	N	û	料	阿片	阿片	阿	私	同
臺灣州		얦	力車				图	7 7:		r!-	食	नम!		烟	片		
勢便號		舁	_				販	種		<i>L</i> a.	环	理	Н	百吸食	受	病	Ť
	: 既	夫	夫	ŧ.ii	妓	妓	Ñ	店	屋	龙人	店	屋	・・・・		賣	院	商.
可以我们	急地	1島		出地	島地	島地	島地	島地	(木島人	島地	島地	島地	Ė	Ę,		地	Ę.
		沙	為 也。	ડ .∹.	悪芸	Ti Ti	遊書	元 大大	프 - [의	æ <u>E</u>	जिल्ली.	73.P3 23. H .	}	ì	j	10	1
	그 -납 커니크	五八八	1	善	1분	益	四一八三	光四	17	一大	灵聚	受查	Ξ	班.	八四六	j	104:1
	24 2015	: 1	i	프. 개.	- 泛	<u>一</u> 天奉	蓋	三八九	<i>ا</i> ت	一天	ご九	登三	=	亚	1150	j	5.
]]	壹	1 1	至	1 1	上卖	<u> </u>	됨	=	æ.Z	四次	三灵		1	O Ed	j	j
计十四	1 1	ł	1 1	j	: 1	霊	1 1	1 1	1_	1 1	1 %	三	i	땓	킁	ľ	1
- 11-1		1	ij	I) हुन हुन	l 등	买一	1 1	I —	ماد ا	5 Em	lä	j	五	さ	į	1
Kert and Ber		、	弘	亚	ж.Э	蛋. 安力	元 元 五, ₂ 9	カル	.97.		芦蒙	一 景		<u>=</u>	=		=

会立 金
一 一

華梅形勢便复	<u> </u>	東	霧上	芝	竹北二堡	111	Ш	里经	副三	山	直	捘	關二	開	加納		堡里名		○第	本表収穫ノ石ハ
()重要統計		101.000	1	1	12,000	三年(0	11,000	00 H.CO	1	<i>9</i> .00	1	图(0	E 000	10/100	ì	原實			三 果園	ハ盛樹量ナリ
		で芸芸	I	i	<u> </u>	1.50	1:10	八公	1	II.	J	亓	150	PM C) 기	J	作名	I I	Ŗ	果園産額ノー	
	1167(160)	I	1.400	1,7000	四七、三三三	i	₹ <u>1</u> 00	1	1	ı	1学完(0	1,7000	20.000	# , 000	1117000	产客	色大	甘		
	1020	1	仌	<u> </u>	二、汽	j	受益	1	i	i	±.	100	四十00	三 六0	智	作名	g f	子		
		j	i	ı	j	1年00	1.000	17100	1、五00	1	!	i	1,000	[1	左右	首人村	出		
[=]		ı	i	i	ı	四进	흥	以四	四五	į	I	i	卆	i	j	作 四 名		f	(明治三十二年)	
ニナーセ	. 1	₹10°000	i	i	i	i	j	i	ļ	!	1	1	i	i	1	后然		IJ	十二年)	
		単次の	1	ı	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	竹門書	7	袒		

堡	堡名	7 () 育	十一年	計	堡 ;	堡 :	堡	堡	堡	里	里	里	里	堡	堡	修
	·		Ц	,													i
	產 「類 何 (樣長	長割	三量 英子()	五四五、一九八	1	ļ	Ī	j	马克O.0克人	1,800	₹000	í	考入(20	00 4,4	}	11.600
1	便 ^円 額。	子名	歪頂ノー	E.00H	馬巴六	ſ	ſ	ļ	1.	で芸芸	탪	金	}	九五	吴	i	17.0
MC000	宝气 产额	梛		一三六九0	三二	1,000	ラゼニ	j	i	!	1	I	1	1	ļ	}	
さ	五 元 元 元	拔		四二六二	一号武光	<u>F</u> 0	1公二	ļ	1	1.	I	1	i	i	i		1
j	產 斤額	棋郷		元100	水100	ļ	i	i	ļ	i	[J	ſ	. 1	00071	ľ	I
[價)PI額	子	=	1.100	101	1	i	I						ļ	台	i	3
1	產 斤額	芭蕉	十二年)	六六十、000	一量二層	강	三三元六四	1時,000	£0100	I	ì	I	1]\$0,000	j	j	11年1600	九(000
1	價 PI額	實		五四八			东. 九四			j		1	00117	1	1	无一	副

總水

紅員四頭嘉嘉嘉觀新苗埔東

義祥祥音化栗里螺 東外內內東一社東

臺灣形勢便覽	總計	山	, 苗栗一堡	東	羅	堡里名		第	明治三十一年	總計	嘉祥內里	祥外	內新化南里	楠梓仙溪 西 里	羅漢外門里	新化東里	永 豐 里	五城堡	埔里社堡
○重要						産)	.21 1	五.	灵	秀						六	110	-	
統計	宝	1	j	空宝	达	F 額 [梨	果園産額ノ	1八四00	HK BCO	.]	}]	j	1	大門〇〇	10000	}	}
NATURAL DESIGNATION OF THE PROPERTY OF THE PRO	24	J	J	110	10	質用額	仔	陸額ノ コ	空0	듯	j	j	j	j	J	四六	台	j	J
	冕:000	j	EH. 000	J	1.	產	柿		1	1357140	i	1000	I	1	1	j	ļ	1	1
	二空	ı	三 架	i] !	便 照額	仔		1	五二二	i	=	1	1	j	1	l	j	
	1四元公司	一四九六三	j	ı	1.	厅額	桃		1八九八〇〇	1. 四三五、八〇〇	1.1110,000	1	一 なる	交100	19,000	i	i	į	1119,000
F[1]	弯	六	i	i	1	價 P 額	仔	(明治三	子が0	五二二二五二五二十二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	20	j	븣	カロド	一三六宝	1	i	j	一元
三十九	玉九、四六四	五九四六四六四	1	ı	1	何額 產額 何额	李	十二年	j	五四、六〇〇	J	j	i	j	I	1	1	公 公	医(000
	1,47.1	一七九二	! 1	1].	個 四額	仔		1	1 05	1	1	1	J	1	1	1	次九	景

產量

製產 價 額

一大三大人が力大

咒咒究实

(明治三十二年)

氷

ない。 さい。 一学のでもできた。 一学のでものでする。 でいまかまた。 でいまかない。 でいまない。 でいまない。 でいまかない。 でいまない。 でいまない。 でいまない。 でいまない。 でいまない。 でいまない。 でいない。 でいな。 でいない。 でいない。 でいない。 でいな。 でいない。 でいない。 でい

明治三十二年

1元元 **中下** 1元元元 **中 下 港** 1元元元 **中 范** 200 **市 港**

三 三 三 三 三 一 三 一 三 一 三 一 元 一 徳

年 明治三十二年 〇第

四七六四

 宝笠

大公言

明治三十二年 質額明治三十二年 質額

明治三十二年度

""價數量

がマスター (金梭魚) (加納魚) (金梭魚) (加納魚) 三宝三で 三宝三で 三宝三で 三宝三で 三宝三で

明治三十一年度

a not be the second of the second second of the second of

〇同

其二

(明治三十二年)
(明治三十二年)
(明治三十二年)
(明治三十二年)
(明治三十二年)
(明治三十二年)
(明治三十二年) (馬加急) 一門 (馬加魚) 一門 (馬加魚)

Digitized by Google

Original from HARVARD UNIVERSITY

等得形勢便是	サ其他魚介藻ノ部ニ併載ス但一千斤未滿ノモノト雖各地方中一本表ハ各地方主要漁獲物ニ就キ調査シ得タル分ニシテ流獲物一表申括弧內ノ魚名ハ臺灣土名ナリ	明治三十一年度	明治三十二年度	年 次		明治三十一年度	明治三十二年度	年 次		明治三十一年度	明治三十二年度	年 次
〇重要	二併載	n n	質 散 量					~ "		n n	質 數額量	
NATION OF THE PARTY OF THE PART	ス但一千斤五二名ナリ	? ?	五 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 一 方 こ う た う た う た う た う た う た う た う た う た う		其四	707 質容	10岁老河	(白腹仔) カット	其三	? ?	15000000000000000000000000000000000000	(龍尖魚)
Marakar Letanyan da	米滿ノモノ		三二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二			八二 三 三 三 〇 〇	九二 七十二 八二			八〇八五六十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	考(A)(A)	
	ト雖各地方中	등 -는글 		(語) 任) (勉タカノハ ニ	•	五〇九六四	五、 三、 三、 三、 三、 三、 三、 三、 三、 三、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、			五二三〇	四八三二次0	(温仔魚) カラウ
700000000000000000000000000000000000000	中一千斤	七八四四八九四四八九	元元0	魚水		? ?	芸芸の	(鳥毛魚)		? ?	言言	臭肉魚)
	以上ノ海ボ	? ?	三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	(龍 蝦) (•	九九八八〇	三元000万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万0万	苦がい	,	? ?	四二元	(臭肉魚) (目孔魚) (鐵甲魚) (鳥 魚)ウルメム ロア ザポ ラ
סעו	没アルモノ	コスクス) (馬頭魚) (三三〇四五三三二三〇四五三三二三二三三二三二三三三三三三三三三三三三三三三三三三	宝式元	(続 シ ・ 子 コ		五五〇八九五五		(鐵甲魚)
四十一	一千斤以上ノ漁獲アルモノハ特ニ之ヲ其種類ニ一千斤以上ノモノヲ揭ケ一千斤朱滿ノモノハ之		三大	(臭魚) 世	•	二 三 三 元 ざ	式量 元 元 元 元 元 元 元 元 元	(丁香魚)		二五、八五七二五、八五七		魚が魚魚
	其種類ニ	一名で	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	其他魚介藻		考 学 学	二元元	(漏) (漏) (漏) ()	•	一大大大四二十八八四二		(鳥が)

總	合	甲堡	坵田西堡	隆內里	竹里	昌里	合	竹南一堡	北一堡	堡里別	○第	年	<u></u> 二十二年	年次	()第	
म्या म्या	計	北門嶼井仔脚	布 袋 啃	鹽 埕 埔			計	坦	油車港虎仔山	製鹽場名	三製鹽	度 門空主 三三星	三元 三元 三元	The state of the s	二卷魚池	サ闕ク又明治三十一年度ハ七月一
ご五○◆四九	二三八十八九	二1.九0	八•一七	11:•10	四五。七〇	七1•0:1	11•	≓ *凸	八十八〇	鹽田面積			五七· 元 男 次 三 四 一 元 一 元 一 元 一 元 一 男 次 三 四 一 元 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	草		七月一日ヨリ翌年六月三十日
1 मेर्रा क्षां	三三三五	四九七三四	四三八二四	五二三三	14,141	1年7三七二	1,0111	图11	六 石石	製鹽高價	(明治三十		1号・宝 三字次 号面 積 質 額 面	魚魚	(明治三十	十日マテナリ
六一五五一	大 C 大 C C C C C C C C C C C C C	in our	11071130	1 6 1 5	七九五一	セート	七四四	1 00			丁二年)	三八三•七三 四七、二元七	与元·号 跨三层 面 稜 質 額	魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚魚	十二 年シ	200000

	四十三		SECTION OF STREET, SECTION OF ST		更多統計	A TO
一层五八星		1,00公子10	=	· 三	二八九四三五一	俸給及諮給
二十九年度	=	一年度	ミナー	中度	ニャ	種別
					歲 出	〇第 一
					財政	第六門
三七• 55	12.0	北部中	11景	11/1	五〇五九七	明治三 十 年
か. 9.	七。六	二五七二	八九〇	1、六二	地东。四四四	明治三十一年
x	1:0-1:3	三 〇 五 四 石	元丸	二七六五	1号()元六二	
二二二四四四	七三-四二	100	घ्रव	100	宝	年以
11-01	四六•六七		灵	= -	七五五八	六十年以上
1.70	≒• = = =	奈	<u> </u>	五九七	35170	年以
一•次七	二• 吴	空	容	八五四	三九二四二	年以
- 1 - 六四	一五•三二	七四三	· 10%	岩區	四〇大四〇	年以
→ 英	10-4周	芸	五.	三兒	一九八九七	年以
五	j			1	一名	年未
廢烟	死亡	合計	慶 烟	死亡	必食権計グ員	争。
員千二付	吸食特許人員千二付治 三十二年)	者 (明	及廢烟	一般烟者年	合 及ぼ寺宇し直 〇阿片烟吸食特許者及死亡	
				-	阿片	9 第六門
107公司	卖	一九七六	.C.\$	1 121.04	年度	明治三十一

グカ四〇二七五		六九四〇二七五	二十九年度
いまでは、一	Ħ	H	•
計	. 公债補充金	國庫稲充金	年度
	•	國庫及事業公債補充金	○第 三
二〇八五六三九九	二五、四四五、一四五	二八六六七011	
八八八四二七六	六五七九四00	八〇五三、六九四	計
五〇五三二	五六〇五九〇	一个四〇七、四七六	陸軍省所管
ミ・セミハ・八五五	六〇一八八〇元	六六四六二八	灣 總 督
二十九年度	三十二年度	三十四年度	
11/081/1111	一八八六云、七四五	この大コラニセ	計
一七九三四一	三五二、四八五	1.001 七六七	海軍省所管
五、九八、五七	八〇八五三1	大江〇里、夏二六	軍 省 所
五九二三二四三	10三0四七三八	1810六111	灣總
二十九年度	三十二年度	三十四年度	怒 常 部
	次管經費及總督府經費合	本島ニ要スル陸海軍省所管經費及總督府經費合計	〇第 二
	豫算額ナリ(錢以下切棄)	二十九年度三十二年度ハ決算額ニシテ三十五年度ハ豫算額ナリ(錢以下切棄)	
九、公四六、四七五	一六三三六六八	二、七十六01四	計
八四一五四三	1、元四三、〇四六	大三00年九六	
三、四七三、二九七	四、六〇六、六一六	五、公五三、九四〇	土木工事事業費
一、大四六一七四	四二九一八四	四、四三四、二五一	賣
九一六四公	一、七一号、三八三	1、五一二十八五	給及雜
一次宝、四八六	二四二、九七三	五六六 四	赭
当号四十	七五七、四四〇	七〇〇、七四八	
杏唇白唇	七五九、六三三	はいていた	:
			Commence of the Commence of th

高級形勢 像殿 ここまず	三十一年度		〇第 五	合計	免許手數	紙牧	收	財 産 收 入官 栄 及 官 有	陽	地	歲入經常部	○第 四	更定き要求シタリ・公債補充金ハ三十四	十五年度ハ二十節二十九年度ハ特	十五年度	ماہ	三十三年度		حد	
A STATE OF THE STA	中四个二次〇	收入	地方税收支	一二、七七五、三八九	11,701	七二二五二	八六〇四一 八六〇四一	スペルギンゼカ	一一四九九二六七	二〇九四〇四九	豫二十五年度		四年度追加豫算トシテ百七十萬圓ノ	年度計畫深定額ニ陸軍省ヨリ引織の創造計解行前ニ付談入談出ノ業能	二四元为七次二	コミスカススカ	三、死九八、六二	M.COC.000	号九八四五四〇	新光光九(C四八
MOSE ANTERCOCKER CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF				101五八公元	七五〇	五三二二〇	七리(T-1)리	六、五七〇、七五七	1、四グ1、四C七	一名为一	收 入 濟 額 一十二年度		年割額ノ更定サ	『サ受ケタル憲兵引移ノ爲メ警察官增員ニ係ル國庫補いす福充金トシテ撂ク	Ì	E'00'000	**************************************	11 100000	j	i
四十五		支出		二, 古四二	J	1	三元四	東六三十四五	玄宗 三量 一	しまる。世界	收 入 濟 額 二十九年度		求メ三十五年ニ於テ二百九十萬圓ノ	官増員ニ係ル國庫補	内':	大四八六十六九	八九九八六二	*100°CC0	三、九八四、玉四〇一	五、九五九、〇四八

四三

三十三年度以後ノ收入不足ハ臺灣特別會計ヨリ補足收辨セー年 度 1700万三元 4 度 1750万三元 1750万三元 年 度 1750万三元

ルモ

三、三七六、七九八三、三、三七六、七九八

1、400、九量

類聚

●第二間 家

戚謝鄒喻 馮陳褚衛

鲁幸昌馬 孔曹嚴華

超錢孫李

野鮑史居 相水實章

費廉 岑 醛 本 養 花 苔

雷賀倪湯 奚范彭郎 何呂施張

四十六

ST. VERBUSTON		李		離	消息	悠		關		居	别	113	威	优	毁	桥	房	梅盛	紀	Ŧ.	般
SAN YOUR BEING		奈舜		-	公治													林汀			
TO THE PERSONS AND PROPERTY.	原	欽	近了	長滋	宗政	上岩	覆	查絲	晁匀	都服	柴贝	冉宏	阜前	甘郐	鳥偷	裴贴	干似	鍾鈴	項部	妮欢	郝阜
SAN STATE	佣	梅	歆	掃	濮	歐		荊	放			船	1%	展	巴	聚	應	所	畫	泛	蒙
DEX. TOTAL	遲	恩	姓 自	1:	陽	纫	发土.	心.	The last	177	コピ	ヴ正	炙	戏	问	13	ગંદ	妈往	柴	往	th
MUNICIPAL	涂	郇			淳工	-											-	高			
	過	來		13	于單于	济		權	F	文	$\frac{1}{2}$	系	除	犯	ill	於	7.5	夏蔡田	藍	[3]	時
TEL PARTIES	海	綦		51.	1	何		100	山心	/ES	臼	Ti	i i i	30 1)	行	المثائد	到)	Ш	次	<i>5)</i> \	争
VARACERO	薩	沿			大叔													樊胡			
TANK TANKS	法	和			H	八東方		桓	毙	闕	訊	124	1	束	宓	亥	杭	遊禮	廊	明	齊
CONTENSOR	火	梪			陷	<i>)</i>		4	2 E	氷	4.r	7111	عو	ĦΕ	Æ	3 7)	供	框	73;	754	深
	商	環				赫海			曾典	歐乃	向力	邊原	聞	葉	全	防湿	包丝	虞	買吸	計學	伍
	歸	師				皇			沙沙	又沃利	口易處	係挑散	辛黨/	羊司动	師班加	大路が	的左	內支河	野婁会	八成語	伍余元
	南	諭			孫	m			区	ひり	陕	夹	任	цп	Դի	491	41	柯	儿	翼义	r
13	官	佟			軒													答练			
	沐	元			藍分狐	公			須	變	庾	尚	游	從	併	嬔	鈕	管虚	簱	茅	平
	辜	虎			狐				Tol.	性	不少	がそ	疋	7引)	产	123	月夏	莫	구 ()	INE	與
_																					

四十七

鎖岳

所 H 餘 日 爲 旣閨 望 五年再 十六日 晦 H

二八候時秋春朔問士節《《《《 (春五日為 (春五日為 (春五日為 (春五日為 (春五日為 (春五日為 (春五日為 (春五日為 (春五日為 少太 帝帝 **吳花**天天 **玄** 祝 冥 融 額 炎 項 帝 黑 赤帝 上暑念 天天日

八刻、 共百

秋分

五日為一候一年三百五日為一候一年三百五日為一候一年三百五春 小暑 立春 雨水 小暑 大暑 立山 水暑 大暑 立山 水暑 大暑 立山 大立水 寒 秋 工秋、處暑、白露、秋分、出水、驚蟄、春分、清明、穀二五夏、夏至、立秋、秋分二百六十日總計有七十二侯、八刻、惟子午二時各十刻、 穀雨 寒露 立冬 立夏 霜降 冬 小至 立 流 冬

찯 小種

雪

三 伏大夏 零至

《夏至後四庚》

末伏

《夏至後五庚

第六門 中

H 日元旦 三日 二日福德 四日接神 五 **降** 十五日 十五日 日 明 現 六 日 二十十日二十十日

官衙開印

九

日玉皇

一日例

月

日 舰 日 已降 H 前後淸明節

H

+

九日大陽誕日

H

天

上

俳 誕

九月

H

祭

Ē

神

帝誕

短陽 佛節 節

關城 帝誕 君日 祭 H

五.

五

日

四

日

浴

月月

四十九

日半年 十九日觀音菩薩得道昇天日

月 日乞巧節 十五日中元節

日天肌

本月中 盆會を行

十十十九八 月

に依

いりて其

9 日異なり 二十三日廣澤尊王誕日

十五日中秋節

重陽節

三界公誕 水宦菩薩誕日》

日牙祭 二十三日電 神祭

二十三日二十四日大掃事

一十四

末日除夕 十五日迎福祭 辨年貨

年祭

門

祖父母 《自稱》

家祖母

家大母

歿後自稱 **命祖父 介大父 介祖**

《自解》 **介祖考 伶先大父 令先祖**

先祖

令先大母 先大母

分先祖 分先祖

伯叔祖父母

歿後人稱)

人稱》

家伯祖 家叔祖

家伯祖母

家叔祖母

令叔祖

母

冷叔祖 合伯祖母

介伯祖 家外祖 家外祖母

()自稱

介外祖 **合外祖母**

《自稱》

祖父母

家外伯祖

家外叔祖

家外伯 祖 母:

家外叔祖

五十

母

先慈

介庶母

愚父子

賢橋梓 家伯

家叔母

· 角飞、 《殷後自称》 小号 《人称》 令岳游 令岳女 《久称》 令岳游 令岳女 《久称《自称》 家岳父 妻父母 **介伯母**

令岳母 **一个**丈母 家岳母 妻母

令伯丈 妻叔 **介**叔岳 妻伯母 妻叔嬸

要伯叔父母《自稱》

介伯岳 家母鼠 家舅母

介舅母 《自稱》

家姑夫 家姑母

五十

表兄弟《 兄弟 姉妹 姨夫姨母 表姉妹 姉妹夫 《總稱人兄弟》 (總稱人兄弟) 《自稱妾》 (人稱) 妻歿後自稱》 八稱) (姑舅兩姨之子) 《自称》 《自稱》 《母之 **介表**姉 **冷姉夫** 介姉 命正 家姉 **尊水** 家表姉 賤 覧 見 見 見 弟 弟 弟 如夫人 **冷表弟 冷姨母** 《自稱》 舍弟 (自称) 先室 家表妹 賢尾仲 奪閩 家嫆 貴事房 家表兄 家姨夫 **今**弟婦 尊夫人 含弟婦 賤內 含表弟 家姨母

甥婦《自稱》 《人稱》 姪婦 《人稱》 一个姓孫姓孫。姓孫婦《自稱》 內姪。內姪婦《自稱》 (人稱) (人称) 婦(自称) (人稱) 《姉妹之子》 (兄弟之子) (自稱) **介外甥 介甥婦 介**姪 **小孫** 《自稱》 含甥婦 小孫媳 含姪婦 **介小阮** 合倩 **伶內姪婦** 舍內姓 **合外甥孫媳** 外甥孫婿 **介甥**哲 姪孫婦 舍內姪婦

Digitized by Google

令外甥孫女 舍外甥孫女

令外甥孫婿 舍外甥孫婿

Original from HARVARD UNIVERSITY

大京元

五十六

外道僧木喬卜相星卜地 臀商書吏鄉翰進擧貢太 甥家家匠工筮士士 日理士賈算典 宦林士人生學 者 者師

大

五十七

		弟恭	兄友	孝		父慈	臣忠		君義	六順
		:		和		義	퍏	仁		六德
				親	逆記	逆君	逆地	•	逆天	五逆
				考	攸好德		康	富	壽	五福
			朋友	弟	兄		父子		君臣	五倫
			•			信	忠	行	文	四教
						耻	廉	義	禮	四維
					信	智	禮	義	仁	五常
				為妻綱	夫	為子綱	父	為臣綱	君為	三綱
乳母	慈母	庶母	母			養母	稻母	AAIA	嫡母	八母
1			機父	繼母嫁#			不見	繼父	同居	三父
	•					冏	ĭ	農	士	四民
				子	妻	弟	兄		父	六親
支持	督務	拼	子	己身	父	궲	궲	•	高祖	九族
			•	! •	• •	妻族	母族		父族	三族
					型數	事名	人	十門	第二	
					•	縣尹	郡君	次	粧	對命婦
			詞壇	文侍	付史	,	文席	文儿	八	對讀書
				•	净	道厚	知赤	厚	知	知
尊兄	執事	門下	賢弟	長兄		仁品	契丈		知	對晚輩

1 < 100

五十九

不睦

誇誕生安

名家

長惠

儒 幼順 下

2文有恩

諸臣有義

明恤

の参考に資せんとす

·籍

著 者 名

、即ち大約左の如及ばすと雖、始ら

林

光雍光同

年年年年

緒正緒治

臺臺宜嘉臺新鳳諸澎淡

山化瑪灣蘭義東竹山羅湖水府 蘭修 来来采来 来 縣縣廳誌 新訪訪訪縣訪縣廳廳稿

志志志(八卷)新修縣志(八卷)重修府誌

年

康道咸 康 熙光豐 熙

周

璽

玉五

T

湖

t

年年年

ー 三三 - - Oニー六〇ーーミースーー 〇

八

張季 江藍陳趙李施沈郁沈丁 莆 勅

戱 日鼎夢 光永光日

眉光 昇元林翼瑶镇文河文建 田 撰

(乾隆年間の人)(乾隆年間の人)(乾隆年間の人)様 曜 六十三年銀四十三年の人)

(開 代 の 人)(乾隆五十三年)

光緒二十年

六十一

沈

光

文

番 海日幸行 求賜小平 赤 海 平草聖平臺 臺淡 灣廳 定灣灣 姓腆臺 上 在 舷 灣地根 陽 始紀紀 紀 雜 哭師 集 記記紀略考記 考 記記錄秋錄末年略 略

 劉林 黃 黃黃
 黃徐藍 郁 孫
 沈魏

 良 叔 宗宗
 宗졻鼎 永 元
 光

 壁豪 璥 羲羲
 羲鼎元 海 衡
 文源

(乾隆五年の臺厦道) (瀬 臺 御 史) (康熙六十一年)

消

誁

薜

門里

海赤東武臺使番番行續海臺澎 海 東東池瀛清東係國 嵌槎功灣署俗境 澎東 海湖 錄 瀛平北舟 游鄭 見筆紀紀雜閒雜補 紀 風紀 碎 紀紀偶筆 詩紀錄終略監清略 事 事略談談紀草事

黄桃趙 六黄郁黄蔣朱六胡 吳 林江王 施楊郁 叔 十叔永宗黄景十三 應 日士 廷永 璥瑩翼 七璥河羲梅英七水 氇 豪昇禎 琅理河

道

光

九

年

道 乾乾 (臺東 隆隆海)。

年

慶十八年

嘉

六十三

光光

緒緒

年年

集

小大南清次西沈李滄榕斯黃鹿文 婆 澄蛤澎澎島臺 文忠 仔沏湖夷地 未漳洲開娑 肅 山房 館房 文堂文 河 齋浦文文 洋 紀紀紀圖 政部 集集約稿集集書錄遺集稿集集集 集 集略略略志說 **一四** 〇〇 五二00 吳惲黃蔡 毛沈 洪李 黄藍沈 范 莊謝胡周 宗獻 奇葆 道鼎光 光 金三于 大 廷敬義臣 齡旗 受地 周元文 咸 年變水仁 周

雍

E

年

隆

慶

年

光

縮

五

年

鳥瀛	彖二	溢	沙	胡	炭	石	YEF.	濂	ध्य	随	林	曾	佐!	松記	<u>.</u> .	車	女	女	石
mo van	, 35	m - 指	<i>></i> 10	193 XX	11	福	11%	K.	ţĽ	山山	文	办	isu "?	714	, ,	/	7	_	_
居寰	測朝	决	村	人士	洲	山	峯	庵	庬	المار	忠	人一	琦		亭	% >	開	開	甫
居寰隨志	急強	4	办	思	办	館	ታ.	*	*	怒	公政	正	-	厓	tr'	决	办	社	₩
INE IC	米氏	臣	X	公	人	遺	人	X	义	公	以書	公	宁		人		人	L A	^
鈔略	抄翁	傳	集	集	稿	集	集	集	集	集	五	集	樂	樂	樂	集	集	集	集
											種								

八八	ス つ	六一二

合 胡季 蔡蘆陳林曾至朱 同沈 松 林戱 復若化則國祖仕 光 寵 翼光 一騰成徐藩望琇 人文

道 光 二 十 八 年

王臺化番皇海蘭天明三兼經續國三經平臺訓十續閩 傳略言考典誌要錄聞事集編編略末編言筆言錄書書

福六永 馬 臺 鎮十 旋 景 署撰七等 范

朱陳葛李 善丁徐福王林何

臺 輸忠士元 化曰懷鎮先 喬

隆倚濟度 賀健祖編謙霍遠

光乾乾 緖 隆 年年年 光光光同 道 康光光

熙 三緒緒

年年年 年年年年 年

ナナセ

) |-|-|-

捐例	秋 識 輯 要	大 清 會 典	大 淸 律 例	中東戰紀本末	古今圖書集成	大清一統志	金 門 志	台 江 縣 志	同 安 縣 志	泉州府志	船 州 府 志	质 東 通 志	福建賦役全書	清 訟 章 程	聖 諭 廣 訓	天下郡國利病書	各國約章纂要	錢 榖 備 要	中國度支考	平定三逆方略	迪
六	•	100		一六	10000	五〇〇	一六		0				= 1		3			0		六〇	
	剛	欽		蔡			林		蔡	懷						顧		槐	英人		
				爾			焜		獻	蔭		•				炎	r	薩官	八哲羊	•	
	毅	定		康			熿	:	臣	布	•					武	• !	庭	天 森		
		康				乾	道	•								道	•		光		
	緒	熙	豚	緒一		隆	光									光		緒	緒一		

年年年年

年年

十九二十二年

たい () () () () () () () () () () () () ()									
思想 二六 五三六 五三六 五三六 数	華夷變態	崎史明灣	史(卷二百八十九臺灣書)	●第二門 報園全集	州 府	門	安安州 縣 縣 縣	州化 府 作 府 连 百	建地外
藤 田村口田 著 用		五三	卷			三三六			
者 謙 貫一孺 彥 明 光 道 乾乾		田村口	著田	用	注 年	凱		廷芳	道承
明 光 道 乾乾 出 光 上 上 治 上 米 上	謙	-	者	錫	等				
出		治十	版 年		緒 四	光 十 九		隆三十三	隆二

見後 特原天養

同陸海水臺ル参洋質 島海亞同中田坪立猪 伊肥 邊山八 後 軍細 井 嘉 俣 地軍 謀水根 藤 測々路事 柏 泰謀 本散俊 原 量令 本協 氏滅 譯部會上巳門譯譯譯 上部部部局大部人虎

同明明明明明明享 明明同明 天寬 明 明明明 治治 保文 治 治治治 治 十 ++ 、元 七 一四 年年年 上年年年年年年年 年 年年上年 年年

圯灣

臺臺臺鄭臺臺新臺灣灣灣成灣灣領灣 產案島功志實地史 業內 業臺要 地度縣島鳥諸起踏灣灣林說質量誌地類島業查 志縣 事情 業內錄 質一誌案實圖班 內記 地灣 調衡 誌島 查調 説明 報查

原入土丸足桂素秋佐松井山臺石多小牟石黑民 臺 灣 八田川田坂^谷 江居山立 堂鹿 藤島禧二南萬 總 通正栗太學見 督 熙英豫彦園郎人橘宏剛助吾縣郎輔治豐作郎社 府

文書

明治 调明 明明明明明明 明明明明明明明 治治治治治治 治治 十八八九八十 十一八九一八八 年年年年年 年 年年 年年年年年年

整個形勢便見

典

書誌

末

九

年

年

八

年

日殖阿東蹇中臺臺臺臺日臺臺臺臺臺臺臺臺臺產片亞內外灣灣灣灣清灣灣灣灣灣灣灣

要

小報調各錄戰紀史地地戰戰事形紀事制氣生歷地

記事料誌誌史討情勢要略度象蕃史誌本 提略 記 一 考報探歌

班

文檢記

年

年年年

年年年年年

年

		\mathbf{v}'
Annales des Voyages. (1810) (5) KlaprothSur la Langue des Iudigenes d (6) KlaprothDescription de Formosa. (7) Stephens, EIsland of Formosa. (1837) (8) Gordon, LientObservation on Coal in th Formosa. (1849)		臺灣 高時の司法制度 臺灣 高時の司法制度 臺灣 高間 制度調査 一班 臺灣 高間 制度調査 一班 臺灣 高間 制度調査 一班
	O然门門 详 能 Candidius, GA short Account of the Island of Formosa. (1637) C. E. S't Verwaarloozde Formosa. (1575) Valentyn, FOnd en Niuw Cost Indien. tom. Iv. With a large Map of the Island.	一 白 并新太郎 同一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
822) Island of	7) Map of	十十二十十四三十二三上上上年年年年年

(6)

Ritter, Carl......Probando der Asien. vol. 111. S.

TOSETO PER

tuwanfu

Corner, Arthur.....Journey in the Interior of Formosa.

Allen, H. J......Notes of a Jaurney through Formosa from Tamsui to

Tainter, E. C......The Aborigines of Northern Formosa. (1875)

Thomson......Note of a Jouney in Southern Formosa. (1873)

Bechtinger......Het Eiland Formosa. (1871)

														-				15-W-\	arian Arr	
(20)	(45)	44)	(43)	(42)	(4 1)	(40)	(39)	(38)		(37)		(36)	(35)	(34)	ට	(32)	(31)	(30)	(29)	(83)
Initial Hing t Lile Formore (1893)	WarburgUeber seine Reisen in Forwoss. (1889)	Colquboun, A. RThe Physital Geography and trad of Formosa. (1887)	Taylor, GFormosa. (1889)	Hopkins, L. CReport on the Island of Formosa. (1885)	DoddHill-tribes of N. Formosa. (1885)	Formosa. Lebour, J. ANotes on some Fossils from N. Formosa.	Tyzack, DNotes on the Coal-field and Coal-mining operation in N.	Colquboun, A. R. and J. H. Steward-Lockhart Sketch of Formosa.	of Formosa from Takow to the South Cape. (1885)	Beazeley, MNotes of an Overland Journey through the Southern Part	With Notes of Fimosa. (1884)	GuillemardCruise of the Marchesa to Kaintschatka and New Guinea	Kleiwachter, GResearches into the Geology of Formosa. (1884)	Honcock, WOn North Formosa (1883)	JoestBeitrage zur kenntuis der Eingebornen del Insel Formosa. (1882)	Pickering, W. AAmong the Savage of Central Formosa. (1878)	Hobson, B. EFort Zelandia and the Dutch Occupation of Formosa.	Corner, ArthurA Tour throu Formosa from S. to N.	Bridge, cypriunAn Excursion in Formosa. (1876)	Bullock, T. L. A Trip in the Inlerior of Formosa.

無耐形勢便難

新店街五番

四

四

番戶

貢貢

苦苓脚

番月

戸

莱蒙庄

番戶

戶

番番月

〇連灣の進士學人及質生

Hosie Alx.....Report on the Island of Formosa (1883

(48)Kirchhoff, Alfred.....Bewohner der Insel Formosa. (1894)

Kirchhoff, (1894) Alfred.....Die Wir thschaftsverhaltnisse der Insel

Formosa.

臺灣の進士舉人及貢生

附增属同属同属数据周同思

貫人階 貢貢

番戶

黄鄭林林李李李謝陳鄭蔡 瑞如涵腐寒蔥產腐雲兆成林赤

明裕三十四年十二月末日)

七十五

羊 竹北 義南山 栗東肚螺 **稠**西市 城 堡 堡和 堡北 噟 尙 新街 港街街 太爺 中 街 嘉 化 西 城街 外 一勢庄 考口 北門 義市 中 東庄 街布街 庄 街 街 **心心上百四十二七十三番月** 七十三 百四番 番 山仔脚庄 番 戶

同同歲同同同母恩 恩同同歲皋同同同同附

生

京東七日 江井大土

퉤

红

11

X.

ムハナニー

人貫 貢

貢人

貢

張賴許虛羅王王淼陳杜陽楊謝吳莊陳李郭陳葉 元世建德秀藍藍國樂式馨壽維德士宗樹鏡紹際 榮觀勛祥惠玉石琳芳珪蘭若馨功勳潘華瀛凞昌

四四七四三五四六四五五五五五四六六四七四十十 十十十十 十十十十十十十十十十十十十十十十十二五十四六九八十六五五十六一七八三七四一

Digitized by Google

四五 水濃塊溝社港庄厝水庄 庄庄

里

河

街

港同鹽 西 **本城堡** 中里阿 埔街 玉電 后街

進同同同同同同同同

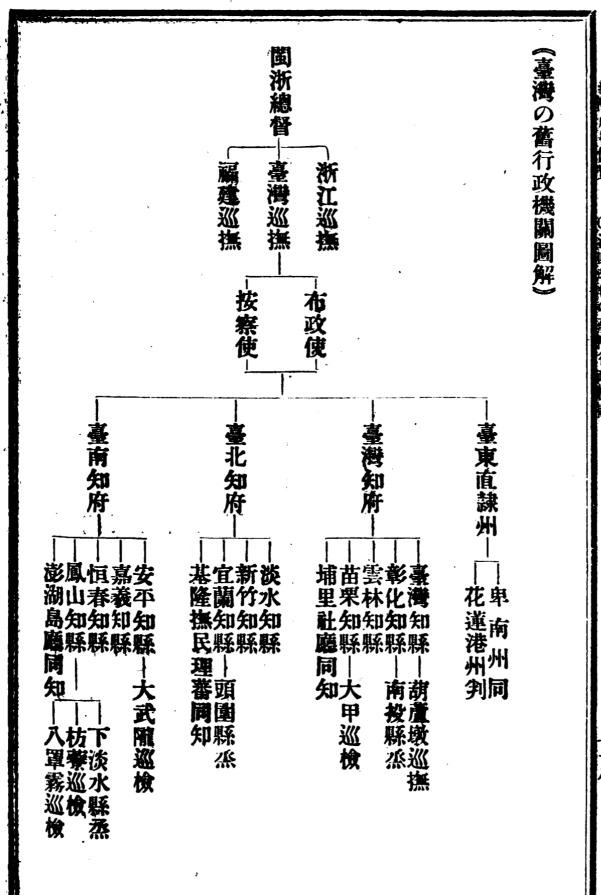
士

楊邱王周楊曾蘇劉蘇 士國廷黃式輸主維瑞 芳楨佐裳金元輝經麟

(五四五七四五六 九五九

12 に巡 涠 組來務 Ø 年 漁を設ける 織 清 い行政が 備 * す 如 は 此 際 變 ざるを覺 大改革を行 府 使 撫 縣廳 の街 E b なり は 資格 CA た め 3 T は T 同 帶 年 な め る 更 年なり र् 以 12 に於ける現在 て臺灣に 布政使 も多 を新設 此 於け 年 此 劉總以 路 數 行敷る政年中 の清 傳 機間央同は

七十七



領臺當時の地方官

光緒二十一年即ち明治二十八年、臺灣割讓の當時に於ける在臺灣の清國官吏の姓名 を彙めて左の一表を得、亦以て近世史上の一資とするに足らんか

					(同二十一年五	县	巡	
					五月歸清)	崧	撫	領臺當時の
	北臺			灣	臺		知	時の地
	管			Si	Į		府	方
	善			3	r		及	地方官一
	TI			,			知	覽
	元	A.S.		馬	泉		州	
蘭宜	竹新	水淡	栗苗	林雲	化彰	灣臺	知	
汪	葉	李	沈	李	黎	范	7112	
應	意		茂	聯	景	克		
泰	深	鑑	蔭	珪	湘	承	縣	
		隆基				裏埔	同	
		方				唐	知通判	
		祖				步	及州同	
		蔭				雲	州	

○領臺當時の地方官

七十九

j	東	臺		南	臺	
1	引	長		#	k	
で参りにして終り	ŧ	辰		禾	Ū	
	Ê	军		9	勻	
THE STATE OF THE S			春恒	瓜瓜	義嘉	平安
ן ו			盧	盧	鄧	謝
			肇	自	嘉	壽
			經	鑅	縝	昌
	港蓮花	南卑				湖澎
	孫	張				陳
	兆	廷				步
	鸞	玉				梯

臺灣地方行政機關 **一**

(卷首圖參看)

其の組織の大要及び年月を沿革的に記すれば左の如し 我が領臺以來、總督府の下に施設せる、地方行政機關は、 五囘の變更を見たり、今

第一期………縣及島廳を置き縣內須要の地に支廳を置く《二十八年六月臺灣地

方官假官制)

張所規程

第二期………縣を民政支部支廳を出張所と改稱す《二十八年八月民政支部及出

臺灣地方行政機關 寶

第三期 ………縣及廳を置き縣の下に便宜支廳を置く (二十九年三月勅令九 一號

臺灣總督府地方官官制》

第四期………縣及廳の下に辨務署を置く (三十年五月勅令一五二號臺灣總督府

地方官官制)

第五期………縣及辨務署を廢し廳を置く《三十四年十一月勅令二○二號臺灣總

督府地方官官制)

現時實在 の制度は、 此の第五期の改正に成れるものにして、其の廳は總數二十廳

するは、 **尙便宜廳の事務を分掌せしむる爲め支廳を置くことを得るものたり、卷首に附** 廳の管轄區域を示めせる地圖にして、今參照に便する爲め、廳名位置及び

支鷹名を一表に示めさん(三十六年二月二十日記)

尙は第二、三、四期に於ても、其の支部出張所及び、縣廳、支廳、又は縣、廳、辨務署の

に幾多の分合増減ありしと雖も、 煩を避けて省略せり、

北 顣 名 本 大 位 加 蛚 堡 堡 堡.臺北城內 基 宜 隆 置 街 街 士林、 頂双溪、 錫口、 瑞芳、金包里、 支 新庄、 枋橋、 水返脚 **滬尾、** 廰 小基隆

頭圍、

羅東、叭哩沙

颹

名

蕃薯寮 嘉斗南 臺 鹽水港廳 新 桃 深 坑 臆 廳 廳 廳 廰 文 桃 南 嘉 漢外門 北一 澗 栗 化 竹 義 西 水 山 東 興 堡 中 里 堡 西 港 鄉 南 里 堡 堡 堡苗 堡 桃 里 堡 恒 鳳 新 里蕃薯寮街 育 滐 斗 鹽 嘉義市 春 和 山 中 竹 化 畁 市 水港街 坑 栗 市 城 址 市 街 街 內 街 街 街 內 街 街 前

景尾、坪林尾

樹札林、 大科崁、三角湧、大坑園、 頭份、南庄、新埔、 楊梅懋、 北埔

成条则、

中城

大湖、三又河、大甲、 通行、後壠

東勢角、塗葛堀、牛罵頭、

社口、紡蘆墩

北斗、鹿港、溪湖、員林、二林、蕃挖、田中央

埔里社、 集々、草鞋墩

林圯埔、 樸仔脚、 東石港、新港、打猫、中埔、梅仔坑、 土庫、两螺、北港、下湖口、 他里霧、 大浒林 以頭盾、 一品背

店仔口、 前大埔、 北門嶼、蘇笠、六甲、 蕭壠、 新營止

安平、車路壁、 大日降、 灣狸、 關帝廟、 噍吧哖

山杉林

打狗、阿公店、 楠仔坑

阿里港、內埔、萬丹、東港、 潮州庄、枋菜

枋山、蚊蟀

花莲渚、璞石閣、成廣滲、巴聖衛

Digitized by Google

所

北臺 城

正の 式に摸せり、 の兩 るも 名なる巡撫劉銘傳 を開き、 を光緒五年に起し、 する通路とす、 は 結果、 艋舺 市之に附 尙は總督 城の在りし所は、 同治の末年に於ける臺政刷新 南北 讀者一覧の便に供 新 城 起街 一府を始 內 巨に 凡ろ 凮 今城内の 12 0 七町、 連 面 の畫策によ して光緒十一年此城を以て省城とし 5 目 め、 般盛質に 同八年に至 頓 三板橋及 市區 育方 東西稍之より狭 に一新 文武各官衙、 6 全島 改正 は景尾街 び圭母 りて成れ に依依 に冠 城内の面目を一新せり、 の結 城壁亦年ば毀たれた た 聚 りて、 重なる會社商店、 に通じ、 5 5 果 內 其の 新 其の最近の 新設せられたる街名及び舊街名を左に 城は方形の壁を繞らし、 に臺 地 北 東方は一 域に 方は臺北停 北 府を新設すること して、 9 三板橋 工事なるを以て、 皆城 爾來進取的 其の後、 車場 内に在 原と廣漠たる水田 而 ょ を經 り錫 て大稻埕 9 我が 政治家とし 四方に五 て大 口 領有 且 12 一行程 通 規模 な 及 の市 C 9 12 一樓門 なり 艋 に接 歸 亦新 C

○名所舊跡

八十三

舺

舊來の街名

府前街、 右の内府直街、 府後街、府直街、撫臺前街、 撫臺前街、 文武廟街は改名し、以上十一 石坊街、 文武廟街、 一街の内に就て、舊街名を用ふるもの八街 四門街、 北門街、 南門街、 東門街、 小南門街

新設街名

右の内府中街、文武街、撫臺街は舊街名を攺正したるものにして、書院街、府中街、新北門街、文武街、撫臺街

○艋 舺

泥堆積 蕃薯を買ふ、 艋ン れるならん、 南 舺2北 及 同名街乃ち其遺趾 とは此 X 城 應 して、 0 港 西 と鼎時、 方面 に接する 依て蕃薯市とい此地雅正年間に 依 僅 カ> の平 して一府二鹿三艋(臺灣府、趾なり、往時は沿岸の淡水河 に淺底の小舟を通ずるを得るのみ 市街に 埔 審語 と呼び には、 の舟といふ義 して、 臺北地方に於て最も早く建置せられ が、 數家の茅屋 後 にし に同 音 あ 7 鹿港、 水深 b の佳字に改め しに過ぎずして、 元と土蕃の泊舟の地 くし 艋舺) て、 の称 巨舶 て歡慈市と書せり、 を輻輳せしめ、 ありしが、 山 人此地 なり しものなり、 しょ 爾後沙 に於て らも起

〇大稻 埕

曝らせ 地 帶は原 より と水田 地名となれ 12 して、 9 其の 日に 中 12 て咸豐三年初めて小 大埕 **あり、** 農民は 稻熟 市街を建置せられ の際、 此埕 <u></u> 12 が

真に新設せられたるは僅に二街に過ぎず

心は、 艋舺 **感衢となり、** 場となりしより、其勢一變し、 沿岸 勢以下流深底の大稻埕 の淡水河 底 漸次堆泥 に移 市街は増建せられ、 して巨舶を容る 9 且 の光緒十三年淡水港の \能はざるに至 巨商は移來を企て、 一部として外國貿易 h しより、 終に臺北 商業 の中

〇淡 水 館

艋舺を壓するに至れ

. 6

なり、 元と東羸書院と稱し、 臺灣經濟研究會皆此内に在り、 或は會議席となり、 臺北府の直轄なりしもの今や官民娛樂を供にするの公會場 又或は宴席となる、臺灣文庫、臺灣協會支部、 臺北城内舊建物中の錚々なるものに園す 蕃情研究

○艋舺龍 山 寺

音山を望み、 龍山寺は、 乾隆三年の建置に 洵に紛塵中別に一乾坤を劃するもの、寺は清國泉州安海の分派な カ> 6 臺北第一の古刹なり、 境內空濶、 右方遙に觀 9

〇城内 の石 坊

b, 光緒六年、 **施表として立る所、** 考棚乃ち府試場を建つるの當時、洪公益といふ者、其敷地を献せ 題して「鈴公好義」といふ、 石坊街の名、 乃ち之に因 りて起 しによ

劍潭古寺

れり

○名所舊跡

八十六

霜推移 劍潭 臺北 嘗て鄭氏の に瀕し、 垅 の稱 を距 綠 廢寺に歸せしが、乾隆三十八年僧華榮再興し、 **ď**) 林蒼 寫 る北 る所以な め に逐 なた 方里 許 9 るの間、 れて此地 0 次で鄭氏の時、 處、 に至 赏 一字の伽藍 Þ とし 9 て流る 携ふる所の剣を此の江に投して去ると、蓋 あり、 此地に一 之を劍潭寺と稱す、 非隆 廟宇を建 γīij の西岸に當 次で道光年間に改造せるも て、 観音を安置せり、 9 傳ふらく、 山を負 星 水

)大龍洞圓山

跡山中に存し、 公園といふ、 劍潭古寺の前 大古巣と呼び、 眺望に富み、 亦一個 方、 四 大に好古の資となすべし、 季共 **今猶其の殘影の認むべきものわり、** 基隆溪を距てく、 の名所 に各人の優遊に適す、 な 9 相 對峙す、 一圓の地域今は公園となり、 此地元と土豪陳某の別園 一小間丘に過ぎずと雖、 人類學者の所 謂石器時代の遺 あ 人呼で圓山 りし所 樹木鬱蒼、 之

〇臺灣神社

及故 圓 を平夷し 北白川宮能久親王殿下の英霞を合祀せらる 園 8 相 ح 對して一岡丘の聳ゆるを見る、 に臺灣 神社を造営せらる、 臺灣 俗に之を劍潭山といふ、 痈 ~ものにして、 社は 大國 魂大巳貴命、 頗る形勝の位置を占 其山上の 少彦名命 部

め 營未だ全く成らざるとき、 面 山を負 S 面河 に瀕し、 既に臺灣神社と命せられ、 眺望亦甚だ佳なり、 同時に官幣大社 明治三十三年九月十八日 に列せられた 造

b

〇芝山 巖

寺に接して文昌閣あり、 蝙蝠洞といふ 中のものたり、 芝蘭に在り、丘巖獨峙し、巖上に一寺あり、乾隆五十三年吳三慶の捐建する所 八芝蘭一名士林の名ある故なさに非ざるなり、岩の東半腹に一個の巖峒あり、 往時文士懸客の相會して、文を練 閣樓に上りて一たび眸を放たば、臺北平原の光景、 9 詩を賦したる處高潔甚だ掬す 歷 々眸 な b

〇學務官僚遭難の碍

堂を巖 17 質に明治二十九年六月十九日とす、表面「學務官僚遭難碑」の七字、 月一日土匪蜂起し、 芝山巖上に在り、 時 の総 上に開き、 理大 臣伊藤侯の揮毫に係る文に曰く 學務官僚六氏をして事に從はしむ、 領臺の當初、 六氏悉く其の毒手に斃る、 我總督府は、 國語教育の普及を計らんが爲め、 其後有志大に之を壯とし、 何ぞ闘らん、明治二十九年 裏面 の碑銘、 之を建っ 其學 共

〇名所舊跡

臺灣全島歸

我版

圖革故鼎新聲教為先正五位楫取道明等六人帶學務派八芝蘭士

林街

八十七

專從其事會土匪蜂起道明等死之時明治二十九年一月一日也

〇蕃 仔 井

北附近第一 芝山巖の北方三角埔に在り、 の聞にあ 9 此地元と平埔藩の接居せし處、乃ち呼ぶに蕃仔井を以てすら、滾々湧き出づる淸泉、淸冽鏡の如く、水質亦佳良、臺

〇北投温泉

遠く康煕の中葉にありしが如しと雖、 境、一變して將に麈俗の寰たらんとす、穆海紀遊に據れば、此の温泉の知られしは 今は衛戍病院分院あり、旅舍數軒あり、 士林を過ぎて、 せる靈泉、滾々として紅雲綠樹の間を流る、 寒村あり、之を北投圧とす、七星墩大屯紗帽の諸 往くこと里餘、 **茅屋十數屋、** 浴場として一般人の來遊するに至りしは我領 毎時人の來り遊ぶもの絶かず、幽邃寂寞の 北投温泉と稱するもの是なり 鷄犬の聲遠~相聞なて、 山、其 の三面を抱擁し 碧落蕭條 神 がの降 たる

〇秒 帽 山

臺以來の事とす

大屯山界に在り、 孤高峭立して、 形の肖たるを以て此の名あり、 淡水廳志に記して

曰く

山 上有碎石 如梅花蕊瓣、 風來卽動 俗呼風動石、 石窩有如花心、 蓄水斗許、

汲

乾復自滿

今も仍は此の奇觀 の尋 以べらや否

毛 城

部は目 滬尾卽ち淡水に在り、嘗て西班牙人之を築き、後和蘭人取りて之に代れり、 下英國 領事館に使用せらる、當時高さ三丈、周圍二十丈と稱せられら 其の

佛軍戰死者紀念碑

の後、 清 の惨事を囘想せしむるの資とす、 佛戰 銘傳 一争の際、 舊紅 清 軍 毛城 に將たり、 の邊に、 佛軍の一部隊進んで基隆を陷れ 勇敢能 一の紀念碑を建て、永く其の不歸の靈を祭り、 く闘ひ、 碑文は佛文を以て記しあ 遂に大に んとし、 佛軍を破 る、 振旅海を壓して來る、 9 彼此死傷多し、戰熄む 併せて當年 時

我邦 基隆 の歳、 の紀念の文を刻せるものあ 人の此 對岸の 加禮 ○仙洞に在り、洞○基隆仙洞 一宛諮討伐の擧あるに方り吳春帆等の一行基隆に至りて此勝を採れり、 地に在るもの、 洞窟深遠にして、 毎歳祭事を執行するを例とせり、 其與を究め難 内に 洞の内壁 辨財 12 天を安置 光緒戊寅

○三貂嶺の碑

〇名所舊跡

八十九

豪放磊落の詩趣大に味ふべしとなす、 要を以て稱せらる、 臺北より宜蘭に通する中路の界、之を稱して三貂嶺といふ、嶺路甚だ崎嶇、 名士劉明燈の巡臺の命を帶び、臺北より宜蘭に入るの途次、題せるものにか 嶺上岩面を削りて、 日く 左の七律を大字に刻せるあり、 質に劉族 古來嶮 くる

連蒼隴、 旌旗遙向淡蘭來、 爽道千章蔭古槐、 此日登臨限界開、大小鷄籠明積雪、高低雉堞挾奔雷、 海上鯨々今息波、勤修武備拔英才 寒雲千里

○草嶺の碑

草嶺は、 れも筆力遒勁、 もの二所あり、 三貂嶺の東に横れる峻嶺なり、 劉氏當年の英氣を推想せしむるに足るものわり 一は、
箎」の一字を大書し他の一は、
雄鎭蠻熞」の四字を刻す、
二者何 嶺上に巨石あり、巨石に劉明燈 の題字せし

〇征討紀念碑

る、乃ち之を不朽に傳へんがため、 實に明治二十八年我征臺軍の初めて上陸せしところ、當時貔貅(近衛師團兵)を率ひ 三貂嶺と草嶺との間、坦々たる一の平地あり、其の海に瀕する所、之を澳底といふ たまひし故北白川宮殿下、 いひ當時の臺灣總督標山大將の撰文にかヽる、文に曰く 畏くも此地に御露營わり、以て兇賊征討の部署を定めら 一の紀念碑を此跡に建て、題して「征討紀念碑」と

į

長遂能奏討賊之功其能動赫々耀千萬世三貂嶺我軍初上陸置師團司令部之地今乃建

石此地以傳後世

明治二十九年四月

臺灣總督海軍大將伯爵梓山資紀謹誌

○御露營紀念碑

碑を建て、 團兵の最も苦戰せしもの、 新竹城外の一丘上に在り、 時艱平定後 明に其の頭末を記せり 時の新竹支廳長松村雄之進氏、 當時故北白川宮殿下、 明治二十八年新竹城外尖筆山 之を後代に傅へんとして、即ち此 此城外の丘上に御露營ありしを以 の攻撃は、 我征臺軍近衛師

○鄭氏祠と國姓井

云々、 鄭氏の部將等兵を率ひて大安港より上陸し、以て此山上に屯營せりと、碑あり、題 碑を建て之れを記す、曰く「鄭成功駐兵、 して「開臺鄭國姓」といふ、古祠今尙は人の訪を絕たず、 大甲の北門外に一山わり、 亦一勝區といふべし 鐵砧山といふ、 被困乏水、以刻揷地、 山上に延平王鄭氏の古祠あ 叉洞畔に國姓井といふあり 得廿泉、大旱不涸」 9 相傳ふ、

〇名所舊跡

〇新 竹 城

新竹城の在る所は、元と竹塹埔と稱し、 荒寥の草原なりき、 鹿州 の東征

埔、 寬長百里、 行竟日無人煙」といふ是れなり、 已にして雍正元年、 初めて淡水廳 集に 「竹塹

を置 地方に於ける最古に屬するものあり、然れども多くは頹廢せり 史家新竹城を以て内地の鎌倉に比す、蓋し歴史及び地理の關係に於て甚だ相 といふべし、 くに及び、 今尙は乾隆中疊む所の圖形なる磚瓦城を存し、 十一年初めて刺竹を環植し、 城となせし所、乃ち北路の舊都 城内の諸建築物亦臺北 似 だ 9

○新竹の北郭 園

新竹城外に在 付は 舊観を 窺ふに足るものなきに あらず 9 成豐中の名士鄭用錫の別園たりしところ、今は

半ば廢比となりし

○枋橋 の林氏邸

臺北 けて大に劃策する所あり、臺灣有名の富豪なり、 石は臺地第一流の林氏が園亭たるに愧ぢず 城 の南、 枋橋に林氏の邸宅あり、林氏名は維源といひ、 邸内敷奇を疑らし、 舊政府時代劉巡撫を助 結構頗る大流

坡

へ云ム劉銘傳の巡撫たりしとさい

屢々吟杖を此地に曳けりと、

月班のを一筆

錫口街の東方山麓に在○後 山 9 湖水清冽、 碧潭疑つて鏡の如く、 附近の風色亦甚だ佳な

な

らり某

に棹して湖心に浮ばゝ、東坡赤壁の遊を思ふに餘あるべし 傅 へ云ム劉銘傳 の巡撫たりしとき、 屢々吟杖を此地に曳けりと、 月明の夜

当は割するそうへのなどの

〇八里坌城堡の跡

に滬尾に著せんとする時、左方の山半に隱見する廢殘の古趾、乃ち是れなり 次で巡檢も此に居たりき、 衢を形つくらず、其の對岸なる八里坌は、淡北の要區たりしとき、建設せしもの、 観音山の西に在り、 元と周圍約里許と稱せられ、乾隆の初年、今の滬尾港の未だ盛 大稻埕より汽笛一聲小火輪を馳せて、淡水河を下り、 將

〇中 部臺 灣

〇彰 化 廳

き、清水の春光、浮羅の夢に入るかと疑ふ」と彰化城は實に此の形勝の中心に位 今尙中部臺灣の盛區たり を占めて、雍正元年建置する所、歴史的古城の一として、一顧すべきのみならず、 るを徴 し、土田の沃衍なるを標するに足れり、碧山の曙色、恍として、闘畵 領を扼す、 を右にし、 彰化縣志に曰く、邑治は全臺の中に居り、 南北戸底に局す、山は珠を以て著れ、潭は寳を以て傳る、氣象の峅嶸た 鯨海を楫して獅山に枕し、東西其の流峙を壯にす、 山川秀麗、 廣袤蜿蜒、外に一 鰲頭を左にし、虎尾 百餘里の の天

Digitized by Google

O八 连 山

彰化城の東門を距る數町の外に在 據地となし、 寒を建てたり、 俯觀すれば、 此山に據り、、我征臺の南進軍を控制せんとして、防戰能く努め、 大に苦戰せり、亦一個の古戰場なり 以て其の兇暴を逞ふするを以て常とせり、 全城悉く眸中に落ち、 而して古來此地方に匪徒の蜂起するある毎に、必らず先づ此山を 9 頗る要害の地點 山は一に望寮山一に定軍山といふ、 に位するを以て、 明治二十八年賊徒の一類亦 我近衛師團は為に 嘉慶十七年旗 山 上上的

)九十九峰

彰化城外遠(東方を望めば、峯尖無數、 曙色始めて開けば、 霞光燦爛たり、 俗に稱して九十九峰といふ、 秀で、雲霄を磨し、 其の尖銳削れる如 彰化地方形勝の

〇大成殿(彰化城內)

なり

結構 一は道光二十年に建てし重修彰化縣學碑記、 の文字を以て「文武官員軍民人等至此下馬」の文字を記す、 の佳麗なる、規模の宏大なる、臺南の大成殿に次し、 一は光緒六年に建てし重修邑學碑記な 門前に石標あ 構内に二個の石碑 9 漢滿兩 あ

○阿罩霧林氏の花園

水席邊多」 別に と蓋し能く園中の光景を描き出せるもの、 一小閣あり、名づけて歩蟾閣といふ、 林紹堂の別墅なり、 水石奇を鬪 花木美 閣に聯あり、曰く 枋橋林氏の邸と並び稱せらる 定競 W, 園中 ・の光景・ 紅塵橋外少」 大 に見

〇虎 山 岩

す、茂林修竹、 沙坑内にあり、乾隆十二年里人賴光高資を募りて建つ、岩の左右、 翠巘丹崖、 遊覽の勝、 碧山岩と等し、 春夏の交に當る 山に依 毎に りて環抱

の境界に彷彿たり

下し竹影参差として、清風徐ろに來り、

緑陰地に滿つ、

身を其の間に置けば、

肺

○碧 山

北投圧西の山上に在り、 乾隆十七年住僧資を募りて建つる所なり

日 〇 月 潭

藍鹿州嘗て此の勝地を記し、 而して此附近、 今や帝室の御料地となれり 有名なる記文一 篙あり、 潭は質に水沙連の蕃界に在り

〇前 山 第 一城 0 碑

林圯埔街の舊雲林城趾の南に立つ、 光緒十二年に建つる所、 時の知縣陳之を書す

〇名所舊跡

九十五

秋

る

弥歴史上の一紀念物たり

〇八 通 關

横切りて、 又同じく吳光亮の刻するなり之を臺灣山中の二大碑と稱すべし 闡の前麓之を鳳凰山といム、山麓の石壁を削りて、之に「萬年享衢」の四大字を記す しき、關門今はなきも、自然石に「遇化存神」の四大字を刻せるもの尙存せり、八通 高山の東北山竿を稱して八通關とSよ、光緒元年中路の統領吳光亮、中央山脈 臺東に通ずるの道路を開き、工成るの時、關門を設け、之を八通關と稱

〇大 石 皷

石に激し、 に入る、已にして鼕々の聲耳を衝て來るを覺ゆ、近づきて見れば、 臺中より埔里社に赴くの途次、龜仔頭を往くこと幾許もなくして、 石皷といふ 岩に碎け、 萬顆の珠を飛ばして、沸々音を發するなり、土人名づけて大 北港溪の上流 幽邃寂寞 の山路

〇龍 目 井

旁に二石あり、狀龍目に似たり 蛇仔崙庄北に在り、 泉清くして味甘し、湧起すること尺許、玉花を噴くが如し、

〇清 水 岩

許曆寮山麓に在り、乾隆の始め、寺僧募建する所、

亦一勝地なら

十六

許厝寮山麓に在り、乾隆の始め、 寺僧募建する所、亦一勝地なり

③南部臺灣

○臺南城

を改築せり、城周二千五百六十丈、高一丈八尺、上の廣さ一丈五尺、下の廣さ二丈 其の東南北を弧にして、其の西方を並にせり、四方に大小八門を開き、城樓巍然と と木柵を繞らせしが、乾隆五十三年大學士公爵福康安等命を奉じ、土を築きて城壁 臺南城は、臺灣の舊都なり、 して、 二萬四千〇六十四兩なりと云ふ 一巨鎭なり、此工五十三年十月より起り、五十六年四月に竣る、 而して其規模の宏大なるも、此城を第一とす、城は元 費す所金十

し所にして、今尙南部商業の中心たり、城内の市街家屋多くは壯麗にして、 此地は鄭氏以來、淸治二百有餘年の間(光緒十一年まで)、常に本島中央政府の在 隆なおも、 敷くに磚尾を以てせり、 城の西門外一里にして、安平港あり、臺南の港 道路狹

)赤 嵌 城

口なり

和購人の據れる城趾は、安平及び臺南城内に在り、安平に在るもの、土人王城と呼 び、今や税關の建物を設くる爲めに、 大半破壞せられしも、尙殘礎を見るべし、舊

○名所書跡

九十七

として、紀念するに足る 文昌廟海神廟を建てしを以て、今は舊形の一部を失へるも、 圍四十五丈三尺、高さ三丈六尺と云へるは之れなり、 **や尙紅毛樓の名あり、磚瓦を砌して造れる建築の遺趾、歴々見るべし、** 記に、廣さ二百七十六丈、高さ三丈餘とい人るは、 之れ 光緒の初年、樓の舊趾に就て、 なり臺南城内に在るもの 三百年前の歴史的建築 舊記に、

〇開 山 神 社

原と「明延平郡王祠」と稱し、 **耐典に列すべきの奏議を扁額にし、** 本祠の正面に、 配字の崇嚴なる、 其追諡に曰く 同治十二 地域の神聖なる、 一年十月、 鄭成功を祀れる所なり、 **尙は之によりて發せられたる禮部の移咨をも掲** 沈葆楨等の鄭氏の功を追賞し、賜謚建祠之を 人をして爲めに神在ますが如きの感あらし 正門頂に題して奉旨配典と云

危 身奉 上 日 忠

忠 節

艱 危 莫 奪 日 節

桐後に、 鄭氏の母翁氏の祠あり、 扁して太妃祠といふ、監國祠、 寧靖郡王祠其左右

にわり

1

Digitized by Google

周

〇忠 義 亭

餘人、 の所とす、 懐忠と云ひ、 務を部署し 康熙六十一年朱一貴の亂を作すや、 誓つて義を起さんことを謀り、 今に至りて異なることなし 救額 大に力を疆場に效す、 あり、 亭を里内西勢庄に立てく 亂平 當時鳳山の下淡水溪岸 清朝の旗を立て、清帝の牌位を祭り、 くに及 び、 清帝其の功を賞し、里に旌し 忠義亭といふ、事ある毎に會議 に移住せる粤屬 更に軍 萬三千

〇寧靖王の墓

鳳 と Щ 轉じて此 0 維新里竹扈にあ 墓表に詣 てなは、 9 即ち明の寧靖王を祭れるもの、臺南の五妃墓を訪ひ、 當年を追想し、 **盛衰榮枯の極りなきを感ずべきなり** 踵

)乾隆帝御筆の碑(嘉義城内)

筆の碑は、 ち、官軍を援けて遂に大に賊軍を破り、 ち今の嘉義は、 乾隆五十一 することを発れしむ、 永く芳名を不朽に垂れしむ、 即ち其の生祠の前に建てられしもの、 年林爽文 賊軍合圍 の亂あり、 乾隆帝之を嘉みし、 の中に沈み、 彰化淡水鳳山皆林賊の為に陷られ、當時の諸維 命旦夕に迫 之より諸羅を改めて嘉義と稱す、 以て諸維を回復し、 生祠を建設し、 **満漢兩様の文字を以て記さる、** る、 時に城る 官民の義勇克く公に奉ぜ 内の 之をして幸に賊手 義民皷應 乾隆 し T に委 市 相 縣乃 御 立

義 改名の因たる 生祠 は 今廢壞 せ 9 8 雖 尚 此 寳 碑 0 存 3 あ 5 碑 0 文 12 日

命於臺灣建福康安等功臣生祠以誌事

三月成 樂民業。 功 海灣 速且 不 奇 復 紀 動 勳 王 師。 合 與 建生祠。 日 爲 日 毀似殊 II. 斯 ク致。 F宛 联 忠明著。 崇實斥虛 消彼 政在兹。 在 存 默移。 臺 地 期

乾隆五十三年仲秋月御筆

○林内庄の鄭氏廟

庄內 林 內 今に至 庄 開臺國聖祖」といへり は、 るも、 林圯埔より斗六に至るの途に 尚其 の子 孫の存するあ 6 あり、 後世此地に鄭氏 此地元と鄭成功の の一 部将某の 小廟を立 拓け

る所

福し

〇蕃仔田庄の古碑

附近 蕃仔 是れ即ち當時 畦 實に 邊、 を指導せし 0 田 乾隆 蕃 庄 雜草 人蘭 は、 + 蘇茸 0 離 人 蕃 年 0 かを思ふべし K 教化 産の 九 人 たる カジ 月 蘭人 間 東方 建 を受け、 2 る所 に在 より 斷 羅馬字 習得せる羅馬 碑 る古 12 の横 カ> 埔番部落 1 はるあ を用 n 6 ねて蕃語 なり、 9 以て古昔蘭人の 字を用ね、 多年風雨 蘭 を綴ることを曾得せ 人 の嘗 番語 に曝され、 数化が、 て臺灣 を其 0 碑 42 面 古色

倉然 據 如 5 何 12 9 刻 12 無 庄 時 t 12 外 智 田 此 0 5

百

恒

○舊 城

鳳山 工事を興し、 右は蛇山 より、 の舊城なり、 故ありて移縣を中止し、 に連 **今の地乃ち碑頭に移せり、道光三年再** 5 石を壁とし 康熈の末年建築する所にして、 外に濃塹を焼せり、 龜山を包擁し、 今や城内居民寥落たり 乾隆五十一 周圍一千二百二十四丈の城壁成を告げし び縣城を舊城に移すの議 年林 興隆里に在 旄 の亂 9 12 縣 左 一は龜 城 * Щ あ 蹂躙せられ 9, 12 倚 大に b

〇開 元 寺

記
あ 名づけて海會寺とい 康熙二十九年巡道王效宗總鎮王化行等、 舸 ď 城を 結構 然れども何の時 去る北方五六清里なる、 · 肚嚴、 舊時の面目を殘存し、 ひ、嘉慶五年提督哈當阿更に改修して、之を海靖寺と稱 に今の開元に改めしかは詳ならず、 永康里 にあ 改めて之を寺となし、 臺南に於ける一名刹たるを失はざるなり 9 其の始め鄭氏の北 四面荒凉、 田園 五十 園別館た 餘甲を置き 處々頽廢せ りし す かざ 碑

○大成殿(臺南城内)

康熙二十四年建つる所、全島第一たり、外門に標して「全臺首學」といひ、門內中 を聖廟とし、 年 明倫堂を廟の東に建て、 左右 に兩無を設け、 同五十一年朱子祠を明倫堂の東に建て、 前に廟 門あ ٥, 後に崇聖嗣わり、 明年亦文昌閣を 次で康熙三十 九 間

○名所舊跡

百二

祠 其 に老樹二 あ 0 9 後に建立 株あり、鬱々天を敲 文籍庫あ す 9 而 して廟門の左右を名官郷賢祠とす、 禮樂器庫 ひ、樹下炎を避くるに足り、 あり、 且康熙帝以來歷朝御筆の 其他尚は忠義祠 廟前更に一奇觀を添 扁額皆存 せり、 か 5 廟 W 考 前 悌

○夢蝶園遺跡

城外永康里に在り、 法華寺と名づく、 隆武の擧人たる李茂春の別亭なり、康熙二十二年改めて寺とな 規模廣大なりしが、 今は僅に舊趾を存するのみ

〇五 妃 墓

荊棘累 從 を立つ、亦考古の史料た 梅姐。荷姐。 臺南城の大南門外を出で、 死五妃墓 K たる所五妃墓あり、 にして、寧靖王自經の時、 と刻せり、按するに五妃とは、 b 一山突兀として聳ゆるを見る、之を魁斗山といよ、 傍に廟 か 9 皆殉死せし者なり、乾隆十一年之が慕道 五妃廟と題す、 明の寧靖王朱術桂 其與に金字もて 「寧靖王 の妾袁氏 王氏。秀姑 山上

〇琉球藩民五十四名の墓

聞紀 明治 海岸 四年 かる牡丹社蕃人の為に捕はれ、 の搖灣に著し、路を失して琅矯山中 (清曆同治十年)我が琉球藩民六十六名、舟を臺灣の東海に破り、 内五十四名悉く慘殺せらる、七年征臺の役は實 に迷ひ入るや、パ イワ ン蕃族中最も勇悍 漂流して

「大日本琉球藩民五十四人墓」の十二字を刻し、 ム、碑文に日 て其の事蹟を記す、 に之が爲に起れり、 < 庄の豪家楊といふもの之を管理し、 慕は恒春城の西北統埔庄にあり、征臺役後建つるところ、 裏に當時の都 今に春秋の紀を絶たずと云 督西郷從道侯の名を以 表に

明治四 所殺者五十四名、 年十一月、 五年、 我琉球藩民、 琉球藩王具狀以聞 遇飓破船 漂到臺灣蕃境、 誤入牡丹賊窟、 爲兇徒

舊墳、 有廣東流氓劉天保者 我兵三道並進 獨牡丹高 天皇震怒、 建石表之、 士滑等、 命臣從道、 屠其巢窟、 以敍其略云 兇徒不下、 一痛其非命、 往問其罪、 九月、 五月、 牡丹高壬滑等餘類、 拾收遺體、 **今茲四月、** 擊兇徒於石門、斃巨酋阿祿父子以下三十餘人、 即葬之双溪口、後移之統領埔、 侯騎先發、諸軍次之、蕃人簟痘相迎 請罪轅門、 初琉球人之遇害也 兹重修

明治七年十一月

大日本陸軍中將西鄉從道建之

石門の古戰場

恒 赤の 一山相迫 北 方 牡丹社に入るの山 りて屹立し、 其狀恰 麓、 是れ實に七年征臺役の古戰場なり、之を石門と云 も石關の 如 一夫之を守れば、 萬卒も進 ひ能は

○名所舊跡

百三

ざるの天險たり、 て其避岩に攀ぢ、 七年の役、 終に蕃賊の巢窟を突き、撃て大に之を破る、 蕃賊此要害を死守し、 勇悍克く戰ひしが、 征臺役中蓋し第一の 我兵直 進

激戦地なり

○車城の古碑

車 城福 德 祠 內 にあり、 祠外に同治年間建つる所の、 劉明燈の題賛の石あり、共に史

学上の好資料たり

◎宜 蘭 地 方

○北關

臺北より三貂嶺を越ぬ宜蘭に入るの途。 稱して北關といふ、往時宜蘭北門の鎖鑰として、 山孱幛の如く海濱大石嶙峋 重鎮視せられし所なり の間

關

あり

○蘇澳道里の碑

光緒元年後山を開くが爲め、 北岸計二百里」の文字あり るの後、 一の碑石を建立し、 北路より臺東の菩萊に通ずる一條の道路を設け、 蘇澳と臺東との道里を石に刻す、中に「自蘇澳至花港 工成

〇龜山朝日

龜山朝日は實に蘭陽八景の一なり、古人嘗て詩あり

院 峯 高出半天横。

環抱搶波似鏡明

一葉孤帆山下過。

遇看紅日碧濤生

曉峯高出半天橫。 環抱搶波似鏡明。 葉孤帆山下過。 遙看紅日碧濤生

〇冷泉と温泉

清凉の飲料とすべし、以て一浴して、暑塵を洗ふべし、又無溪街に温泉湧出 に適し、 々流れて、 蘇澳街の山 殊に僂麻質斯に特效ありといふ 溪を爲せり、 麓に、冷泉湧出し、 **無溪街は宜蘭を去る北方約二里に在り、温泉の功は皮膚病** 冷甘掬すべし、此の冷泉は乃ち炭酸泉にして、 以て

東 地

〇 新 城 Ø

開路の事情を記せり、之を新城の碑となす に達し、 新城といへるは、臺東の極北なり、 而して是より臺灣の東西相連絡せしが、住民之を徳とし、後石を立て其の 光緒元年蘇澳より山道を開くや、先づ此の新

城

○蕃族開基の地

毫東 本蕃族膂之を畏敬せり て日く の南方知本蕃社の西南に當り、 知本蕃の祖先、 此石中より生せりと、 叢の竹林 わり、 爾來之を一場の靈地となし、 林中一 の巨石を存す、 口碑

◎澎 湖 島

○名所舊跡

百五

12

知

混

) 蘭人の遺蹟

古昔和蘭人の臺灣に據るや、 地となせり、 日く媽宮港口 去れば其の遺跡今に なる金龜頭、 其の始め 槌仔及び四角嶼の砲臺、自沙島 存するもの二三あり、 澎湖 島 に到 9 先づ此 日〈 澎湖 の地を以て第 本島 の南岸瓦洞港 紅木埕 __ の 0) の城 紅 根

鳳

跡、 即ち是なり 城、

〇大嶼の花園

大嶼は、 て弦に振れ 八罩島中の一 3 跡となす 大島なり、 島中に花園 の遺趾と稱するものあり、 傳へて蘭人

7 アン ~ 將軍 泉

凊 佛 . 1 戰 此地に逝け アレ ベー 爭の當時、 將軍 j, 佛軍は又澎湖島を占領し、 諸軍を率ねて 墓は馬公城内に在 此地 に在 9 9 此間將軍は不幸瘴煙に犯され 此地を以て根據とせり、 時 Ö 水師提督 遂に空

〇媽 宮

澎湖本 海上無事 如きは約 島馬 に澎 に是れ 公城內 湖 12 に在 海 入り、井中に 前媽 5 租 0 康熙二十二年清軍の臺灣に鄭氏を討つや、 加 甘泉を湧 護に依るものなりと、即ち廟を此地に建 かし、 士卒猲を醫せり、當時 以爲 水漲 7, らく、 る三丈、 꺠 昭海 斯

毛

據

は各媽祖宮中實に其の第一の創始に係れ 本土との海上往復に困難 表の扁額を賜 1 媽宮是なり、 12 臺灣到るところ媽祖の廟あらざるはなさ、畢竟支那 mh 0 冥護に頼らんと欲してなり、 5 澎湖本島の媽宮

O施 將 軍 廟

清軍 官民生祠を馬公城に建つ、 最古のものにかくる の鄭氏を臺灣に討平 するや、 祠内に施頭自記靖海の文を石に刻せるあり、 其 の功の第 に居 るも の水師提督施琅とす、 臺灣の碑中 乃ち

○萬軍井と萬歲井

八年三月二十四日、 萬餘を駐 どころに湧き、 井は馬公城 に苦めり、 永く後世の紀念となせり す、 内に 次て同井の水をを飲みて全軍の勇氣爲に大に振ふ、乃ち萬歲井の名を附 時 に水泉少なくして、 あ 之を汲めども竭さず、 6 我比志島混成枝隊の澎湖島 舊記に曰く、 兵大に苦めり、 施將軍の鄭氏を討つとき、先づ澎湖に克ち、 因りて名づて萬軍井とい を占領するや、 將軍之を神に祈りしに、甘泉立 島中良水乏しく皆潟 へりと、又明治二十

比志島混成枝隊の澎湖に入るの當時 病疫甚だ多く、 而して之が爲に殪れ \$

0千人

塚

(1

〇名所舊跡

百七

質に九百五十二人に及べり、後之を馬及城の東門外に合葬し、之を七塚となす、 俗

に千人塚といふもの即ち是れなり

○觀 音亭

沓景頗幽曠」といへるは是れなり 媽宮溥にあり、 康熙三十五年創建、

〇目嶼の石洞

腰に石洞あり、 大約十餘丈、 内頗る幽邃なり

百八

次で乾隆二十九年重修せり、志に「四方煙波浩

明治三十五年一月二十三日出版

明治三十六年二月二十三日再版

著者兼出版人

臺北西門外街一丁目百二番戶

林 里

平

人 臺北城內西門街四十七番戶 宮 部 勘

即

刷

肵

戲臺灣日日新報社

臺北城內西門街四十七番戶

FP

刷

定價金貳拾貳錢

Digitized by Google

Original from HARVARD UNIVERSITY 130

This book should be returned to the Library on or before the last date stamped below.

stamped below.

A fine of ten cents a day is incurred by retaining it beyond the specified time.

Please return promptly.

